

ASUS[®] MES-N

Socket 370 NLX マザーボード

ユーザーマニュアル

注意事項

マニュアルのいずれの箇所も、製品およびソフトウェアに記載されているものを含め、購入者がバックアップの目的で利用することを除き、ASUSTeK COMPUTER社の許可なしに、複製・複写・転載・修正もしくは他国語への翻訳などはできません。

ASUSは、明示・黙示を問わず、いかなる保証もなく、本マニュアルを現状のまま提供します。また、市場状況への適応、特定目的への適応のため本マニュアルを改訂することもあります。いかなる場合でも、ASUS社及びその責任者、役員、従業員、代理店は、いかなる間接的、二次的必然的な損害（利益の損失、ビジネス上の損失、データの損失、営業妨害などを含む）に対し、たとえASUS社が本書もしくは製品中で以上のような損害の可能性を指摘しているかどうかに関わらず責任を負いません。

ASUSが明示に認めたものを除き、(1)本製品の修理・改造などを行った場合、(2)本製品のシリアル番号が確認されない場合には、製品保証またはサービスは致しません。

このマニュアルに書かれている製品名および社名は、それぞれの会社の登録商標もしくは著作権です。製品・社名を識別するために使用するもので、権利を侵害するものではありません。

- SiSは、Silicon Integrated社の商標です。
- Intel, Celeron, LANDesk, Pentiumは、Intel社の商標です。
- IBM, OS/2は、International business machines社の登録商標です。
- Symbiosは、Symbios Logic社の登録商標です。
- Windows, MS-DOSは、Microsoft社の登録商標です。
- Adobe, Acrobatは、Adobe Systems社の登録商標です。
- YAMAHA, DS-XG, XGstudio, Ystation32は、Yamaha社の商標です。

製品名と改訂番号は、製品に印刷されています。マニュアルの改訂版は、マニュアルの改訂番号でピリオドの前後に数字で示されている製品設計のためにリリースされます。マニュアルのアップデートは、マニュアル改訂番号の第3数字により表されます。

マニュアル、BIOS、ドライバー、製品リリース情報は、<http://www.asus.com.tw>もしくは、本書中のコンタクトインフォメーション記載の連絡先から入手することができます。

本書に含まれる仕様や情報は、情報提供のために供給されるものです。予告なく改変する場合がありますが、改変はASUSの責務ではありません。ASUSは、製品、ソフトウェアを含み本書中に間違いがあっても、責任はとりません。

Copyright © 1999 ASUSTeK COMPUTER INC. 不許複製。

製品名：	ASUS MES-N
マニュアルリビジョン：	1.01 J392
リリース日付：	1999年9月

ASUSへの連絡

ASUSTek COMPUTER INC. (アジア地域)

マーケティング

所在地 150 Li-Te Road, Peitou, Taipei, Taiwan 112
電話 +886-2-2894-3447
FAX +886-2-2894-3449
Email info@asus.com.tw

テクニカルサポート

MB/Cards (電話) +886-2-2890-7121 (英語) +886-2-2890-7111 (中国語)
Notebook (電話) +886-2-2890-7122 (英語) +886-2-2890-7112 (中国語)
Server (電話) +886-2-2890-7123 (英語) +886-2-2890-7113 (中国語)
FAX +886-2-2895-9254
Email tsd@asus.com.tw
News news2.asus.com.tw
WWW www.asus.com.tw
FTP ftp.asus.com.tw/pub/ASUS

ASUS COMPUTER INTERNATIONAL (アメリカ)

マーケティング

所在地 6737 Mowry Avenue, Mowry Business Center, Building 2
Newark, CA 94560, USA
FAX +1-510-608-4555
Email info-usa@asus.com.tw

テクニカルサポート

FAX +1-510-608-4555
BBS +1-510-739-3774
Email tsd@asus.com
WWW www.asus.com
FTP ftp.asus.com/pub/ASUS

ASUS COMPUTER GmbH(ヨーロッパ)

マーケティング

所在地 Harkort Str.25, 40880 Ratingen, BRD, Germany
電話 MB/Other +49-2102-9599-0 Notebook +49-2102-9599-10
FAX +49-2102-9599-11
Email info@asuscom.de

テクニカルサポート

ホットライン MB/Other +49-2102-9599-0 Notebook +49-2102-9599-10
Email tsd@asuscom.de
WWW www.asus.com.de
FTP ftp.asuscom.de/pub/ASUSCOM

目次

1. はじめに	7
1.1 マニュアルの構成	7
1.2 梱包内容チェックリスト	7
2. 特徴	8
2.1 ASUS MES-N マザーボード	8
2.1.1 仕様	8
2.1.2 性能	9
2.1.3 インテリジェンス	10
2.2 マザーボード上の部品	11
3. ハードウェアセットアップ	12
3.1 マザーボードレイアウト	12
3.2 ライザーカードの部品 & レイアウト	14
3.3 ハードウェアセットアップ手順	17
3.4 マザーボード設定	17
3.5 システムメモリー (DIMM)	24
3.5.1 DIMMについて	24
3.5.2 DIMMメモリーのインストール	25
3.6 中央処理装置 (CPU)	26
3.7 拡張カード	27
3.7.1 拡張カードインストール手順	27
3.7.2 拡張カードへのIRQ割り当て	27
3.7.3 ISAカードへのDMAチャンネル割り当て	28
3.8 外部コネクタ	29
3.8.1 バックパネルコネクタ	29
3.8.2 マザーボードコネクタ	32
3.8.3 ライザーカードコネクタ	35
3.9 電源投入手順	41
4. BIOSセットアップ	42
4.1 フラッシュメモリーライターユーティリティ	42
4.1.1 メインメニュー	42
4.1.2 BIOSの管理とアップデート	44
4.2 BIOSセットアッププログラム	45
4.2.1 BIOS Menu Bar	46
4.2.2 Legend Bar	46
4.3 Main メニュー	48

目次

4.3.1 Primary & Secondary Master/Slave.....	49
4.4 Advanced メニュー	54
4.4.1 Chip Configuration.....	55
4.4.2 I/O Device Configuration	57
4.4.3 PCI Configuration	59
4.4.4 Shadow Configuration.....	62
4.5 Power メニュー	63
4.5.1 Power Up Control.....	65
4.5.2 Hardware Monitor	66
4.6 Boot メニュー	67
4.7 Exit メニュー	69
5. ソフトウェアセットアップ	71
5.1 Operating Systems.....	71
5.1.1 Windows 98で最初に起動したとき	71
5.2 MES-N サポートCD	72
5.2.1インストールメニュー	72
5.3 Install ASUS PC Probe Vx.xx.....	73
5.4 Install Bus Master IDE Driver.....	74
5.5 Install VGA Driver.....	75
Windows 95の場合	76
5.6 Install Audio Driver (オンボードオーディオモデルのみ)	76
5.7 Install YAMAHA XG-STUDIO	77
5.8 Install YAMAHA YSTATION32	78
5.9 Install Network Driver	79
5.10 Install PC-Cillin 98 Vx.xx	80
5.11 Install ADOBE AcroBat Reader Vx.x	81
5.12 プログラムのアンインストール	82
6. ソフトウェアリファレンス	83
6.1 ASUS PC Probe.....	83
6.2 SiS 620 ディスプレイプロパティ	89
6.3 YAMAHA XGstudio Playerの使用	93
6.4 YAMAHA XGstudio Mixerの使用	95
6.5 YSTATION32	97
7. APPENDIX.....	103
7.1 ASUS PCI-L101 ファストイーサネットカード	103

FCC & DOC COMPLIANCE

Federal Communications Commission Statement

This device complies with FCC Rules Part 15. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Re-orient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING! Any changes or modifications to this product not expressly approved by the manufacturer could void any assurances of safety or performance and could result in violation of Part 15 of the FCC Rules.

Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

1. はじめに

1.1 マニュアルの構成

本マニュアルは次のセクションに分かれています：

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1) はじめに | マニュアルの情報とチェックリスト |
| 2) 特徴 | 本製品に関する情報と仕様 |
| 3) ハードウェアセットアップ | マザーボードのセットアップ |
| 4) BIOSセットアップ | BIOSソフトウェアのセットアップ |
| 5) ソフトウェアセットアップ | 付属ソフトウェアのセットアップ |
| 6) ソフトウェアリファレンス | 付属ソフトウェアの参考資料 |
| 7) APPENDIX | オプション機器とリファレンス |

1.2 梱包内容チェックリスト

製品梱包内容を確認してください。破損しているものや不足しているものがあれば、販売店に連絡してください。

1.2.1 マザーボード

- (1) ASUSマザーボード
- (1) ドライバー & ユーティリティCD
- (1) 本製品のユーザーマニュアル(本書)
- (1) NLXフォームファクター用の筐体・ライザー・電源
- ASUSスリムCD-ROM(オプション)
- 金具付きLCDパネルコネクタ(LCDモデルのみ)
- ASUS IrDA準拠赤外線モジュール(オプション)
- ASUS PCI-L101 Wake-On-LAN 10/100 ファストイーサネットカード(オプション)

注: 本マザーボードは、ASUSライザーカードのみ使用できます。詳細は販売店にお問い合わせください。

1.2.2 ライザーカード

- (1) ASUSライザーカード
- (1) マスター/スレーブ UltraDMA/33・UltraDMA/66 IDE ドライブ用リボンケーブル
- (1) 3.5インチフロッピーディスクドライブ用リボンケーブル
- (1) FDC スリムCD-ROMケーブル
- (1) 予備のジャンパーキャップ

2. 特徴

2.1 ASUS MES-N マザーボード

ASUS MES-Nマザーボードは、小さなパッケージに多くの機能を実現し、ユーザーの厳しい要求に応じるよう設計されています。

2.1.1 仕様

- **Intelプロセッササポート**：Intel Celeronプロセッサ、ソケット370タイプ Plastic Pin Grid Array (PPGA) をサポート。
- **SiS AGPset**：SSiS 620 AGPset 6326 AGP 2X グラフィックスコントローラー・100MHz Front Side Bus (FSB)・バーストモードデータ転送で最大 66.6MB/sec の速度を実現する UltraDMA/66 をサポートします。
- **拡張ACPI & 対ブートウイルスBIOS**：Windows 98対応拡張ACPI搭載プログラム可能BIOS(フラッシュEEPROM)、内蔵ファームウェアに基づくウイルスプロテクトと実質上自動セットアップとなる機器の自動検出機能を搭載しています。
- **PC100メモリーサポート**：2つのDIMMソケットを搭載し、Intel PC100準拠 SDRAM をサポートします(最大512MB)。
- **100/10Mbps LAN**：オンボード Intel 82559 Ethernet LAN コントローラー(完全統合型10BASE-T/100BASE-TX)は、ネットワーク状態を監視できるLAN状態表示LEDをサポートします。
- **統合型グラフィックス**：統合型AGP 2Xグラフィックスコントローラーは、メインメモリー共有方式、オプションのVGAメモリーをサポートします(最大8MB SDRAM)。
- **オンボードPCI Audio (AC'97 CODECサポート)(オプション)**：Yamaha PCI オーディオチップは、3Dサラウンドで臨場感あふれるサウンドを実現し、DAC、ADC、アナログミキシング性能を向上させるCODECに接続されています。
- **ライザーカード**：NLX電源、IDE、フロッピーディスクドライブ、LANウエイクアップコネクタ、PCI/ISAスロット、USB赤外線をサポートします。
- **Wake-On-LANコネクタ**：オプションのイーサネットカードや同様のイーサネットカードによるWake-On-LANをサポートしています(7.1 ASUS PCI-L101 Fast Ethernet Card 参照)。
- **スーパーマルチ I/O**：2つの高速UART 互換シリアルポートと、1つのEPP・ECPサポートパラレルポートを搭載しています。
- **デスクトップ管理インターフェイス(DMI)**：BIOSによるDMIをサポートし、ハードウェアが高い互換性で標準プロトコルを使用し、互いに通信することができます(DMIの有効な部品が必要です)。
- **IrDA**：ワイヤレス通信を実現する、オプションの赤外線ポートモジュールをライザー上に搭載しています。
- **スリムCD-ROM**：オプションでASUSカスタム NLX フォームファクター用 ASUSスリムCD-ROMドライブを用意しています。

2. 特徴

- **UltraDMA/66 & UltraDMA/33** : オンボード PCI バスマスターIDEコントローラーは、2つのコネクタを持ち、各コネクタに2台まで、合計4つのIDE機器を接続することができます。UltraDMA/66・UltraDMA/33・PIO Modes 3/4・Bus Master IDE DMA Mode 2をサポートし、テープ装置、CD-ROM、CD-R/RW、LS-120ドライブなどのEnhanced IDE機器を接続できます。

2.1.2 性能

- **66/100MHz非同期・100/100MHz同期 ホスト/DRAM クロックサポート** : CPU周波数は66MHz/100MHz、システムメモリーは100MHz/66MHzで動作させることができます。共有メモリー構成で、VGA性能を最適化することができます。
- **高速データ転送インターフェース** : 本マザーボードは、Ultra DMA/33の2倍の性能を持つUltra DMA/66バースト転送 66.6MB/sをチップセットレベルでサポートしています。Ultra DMA/66は、DMA/33・DMAと下位互換性を持っていて、既存のEIDE/IDEドライブやシステムをアップグレードする必要はありません。(Ultra DMA/66は、Ultra DMA Mode 4を有効にするため40ピン80線ケーブルが必要です)
- **コンカレントPCI** : コンカレントPCIで、PCIマスターバスからメモリー・CPUにマルチPCI転送することができます。
- **SDRAMによる最適化** : ASUSスマートシリーズマザーボードは、新世代メモリーSDRAMをサポートします。PC100準拠SDRAMを使用すると最大800MB/sデータ転送が実現します。
- **ACPI Ready** : ASUSスマートシリーズマザーボードはACPI(Advanced Configuration and Power Interface)対応です。ACPIは、将来のオペレーティングシステム(OS)がサポートするOSによる直接の節電機能(OSPM)のために、従来のものより高い節電能力を供給します。OSで実行されるこの機能を搭載することで、PCは24時間電源を投入していても、エネルギー消費を最低限度に押さえることができます。完全にACPIを利用するには、Windows 98のようなACPIをサポートするOSの使用が必要です。
- **PC '98 準拠** : BIOS・ハードウェアともにPC '98仕様に準拠しています。新しいPC '98仕様の、システム・部品が、Windows95/98/NTインストール時にシステムを自動的に構成するPlug and Playやパワーマネジメント、32ビットデバイスドライバなどを満たすような高度な目標を定めています。

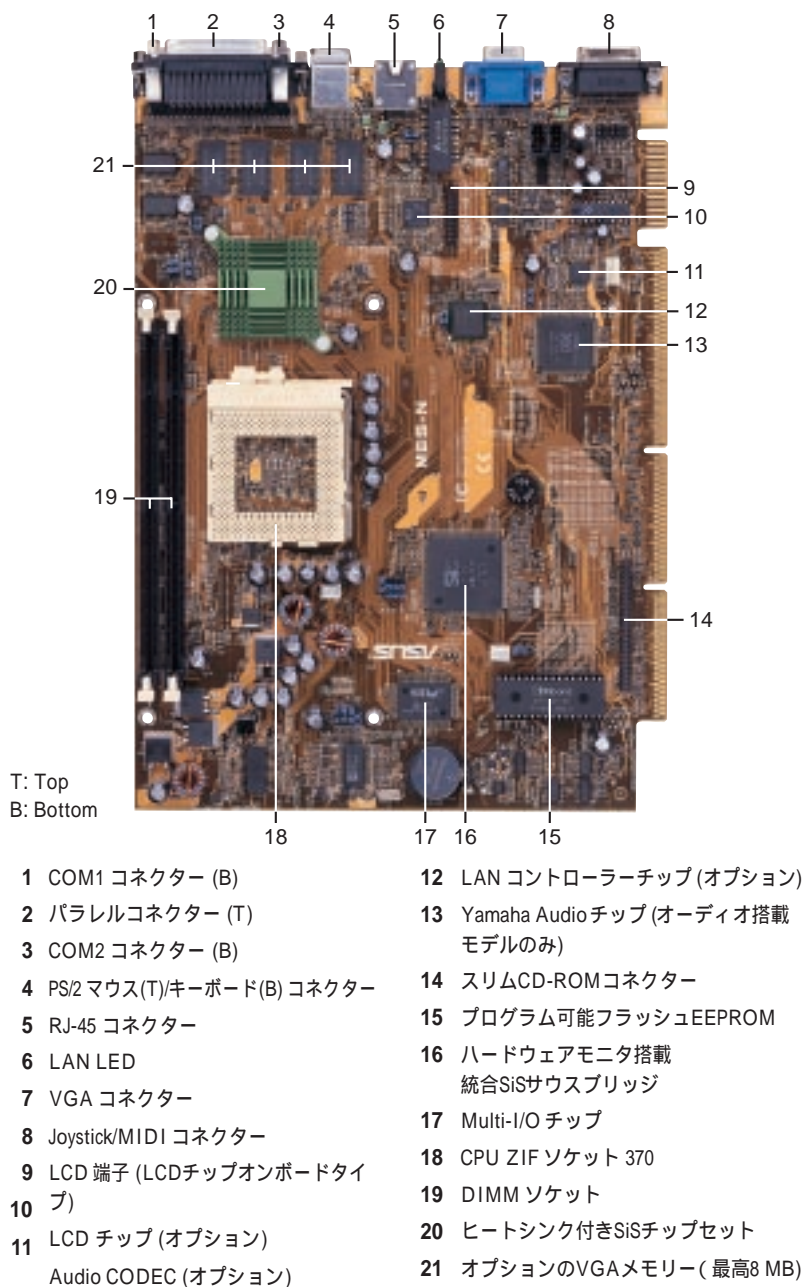
2. 特徴

2.1.3 インテリジェンス

- **ファン状態モニター・警告機能**：システムのオーバーヒートとそれによる損傷を防ぐため、CPU・電源・システムファンの回転数などをモニターすることができます。ファンは、通常の回転数範囲内で設定し、その範囲からずれると警告音を発するように設定します。
- **温度モニター・警告機能**：システムの過熱と損害を防ぐため、本マザーボードは、ソケット370のプロセッサ温度検知機能をサポートします。
- **電圧モニター・警告機能**：クリティカルなマザーボード部品を安定に動作させるため、システム電圧を監視します。電圧仕様については、今後のプロセッサではよりクリティカルになることが予想され、システム管理のために電圧監視機能が重要となります。
- **システムリソース警告機能**：今日のWindows 95/98/NTやOS/2などのOSでは、ユーザーインターフェースや大きなアプリケーションを使用するため、多くのメモリーやハードディスクスペースを必要とします。システムリソースモニターは、システムリソースが使い果たされアプリケーションがハングアップしてしまう前に警告を発することができます。そのことにより、限られたリソースをより効率よく使用することができるのです。
- **Auto Fan Off**：システムファンは、自動的にスリープモード中でもオフになります。この機能はエネルギー消費とシステムノイズを削減し、静かなPCシステムを実現します。
- **リモートリングオン (モデムが必要です)**：本マザーボードを搭載したコンピューターが、内部/外部モデムにより電源をオンすることができます。この機能により、ユーザーは世界のどこからでも自分のコンピューターにアクセスすることができます！
- **メッセージ LED (ACPI対応OSが必要です)**：筐体に取り付けられたLEDが情報を表示します。LEDの表示状態を見ることで、簡単にシステムの状態を知ることができるのです。
- **キーボードウェイクアップ**：キーボードウェイクアップは、コンピューターをキーボード操作で目覚めさせる機能で、有効/無効を設定できます。

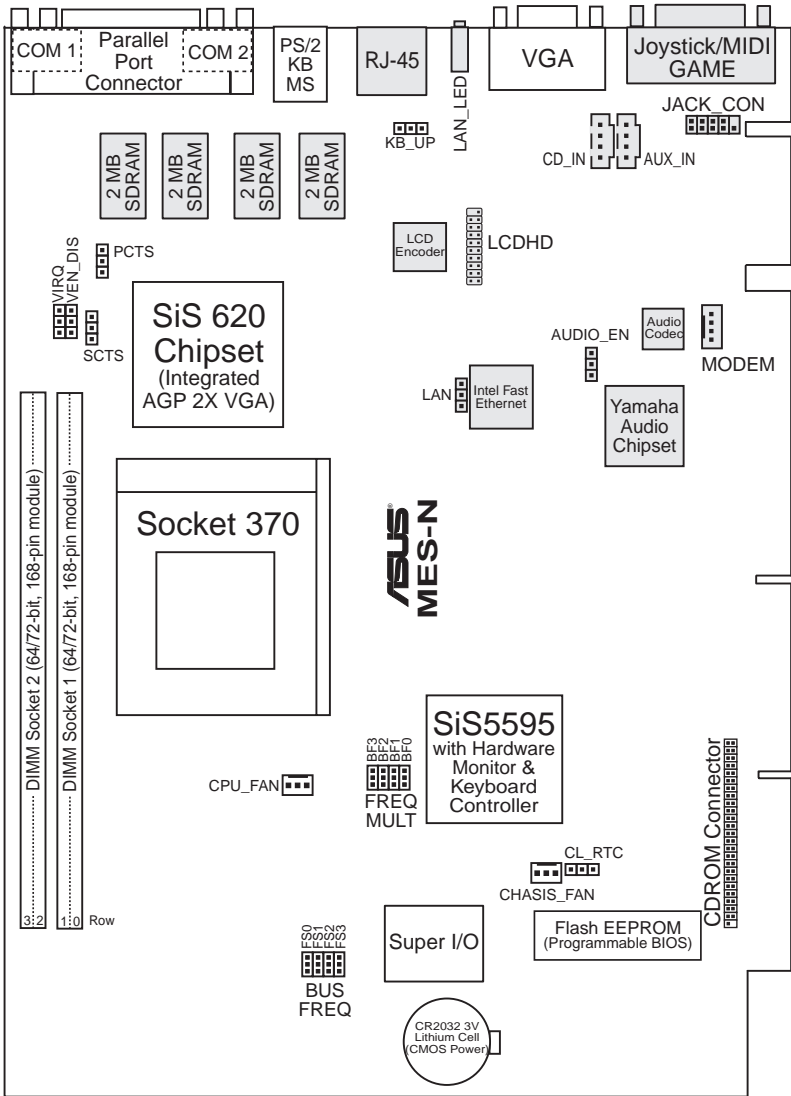
2. 特徴

2.2 マザーボード上の部品



3. ハードウェアセットアップ

3.1 マザーボードレイアウト



グレーの項目は、購買時オプションです。

3. ハードウェアセットアップ

マザーボード設定

- | | |
|-----------------------|--------------------------------------|
| 1) KB_UP | p.18 キーボードウェイクアップ設定 (有効/無効) |
| 2) VEN_DIS | p.18 オンボードVGA設定 (有効/無効) |
| 3) VIRQ | p.19 VGA IRQ設定 (有効/無効) |
| 4) AUDIOEN | p.19 オンボードオーディオ設定 (有効/無効) |
| 5) LAN | p.20 オンボードLAN設定 (有効/無効) |
| 6) PCTS | p.20 プライマリーケーブルタイプ状態 (80 pin/40 pin) |
| 7) SCTS | p.21 セカンダリーケーブルタイプ状態 (80 pin/40 pin) |
| 8) FS0, FS1, FS2, FS3 | p.22 CPU外部周波数設定 |
| 9) BF0, BF1, BF2, BF3 | p.23 CPU Core : 外部周波数倍数設定 |
| 10) CL_RTC | p.53 CMOS RTC RAM設定 |

ソケット

- | | |
|-----------------|--|
| 1) DIMM1, DIMM2 | p.24 168ピン DIMMメモリーをサポート |
| 2) Socket 370 | p.26 Central Processing Unit (CPU)ソケット |

バックパネルコネクタ

- | | |
|--------------|---|
| 1) PARALLEL | p.29 パラレルポートコネクタ (25ピン メス) |
| 2) COM1/COM2 | p.29 シリアルポートコネクタ (9ピン オス x 2) |
| 3) PS2KBMS | p.30 PS/2マウスポートコネクタ (6ピン メス) |
| 4) PS2KBMS | p.30 PS/2キーボードポートコネクタ (6ピン メス) |
| 5) RJ-45 | p.30 ファストイーサネットポートコネクタ (オプション) |
| 6) LAN_LED | p.30 LAN状態表示LED |
| 7) VGA | p.31 モニター (VGA) 出力コネクタ (15ピン メス) |
| 8) GAME | p.31 Joystick/MIDI コネクタ (15ピン メス) (オプション) |

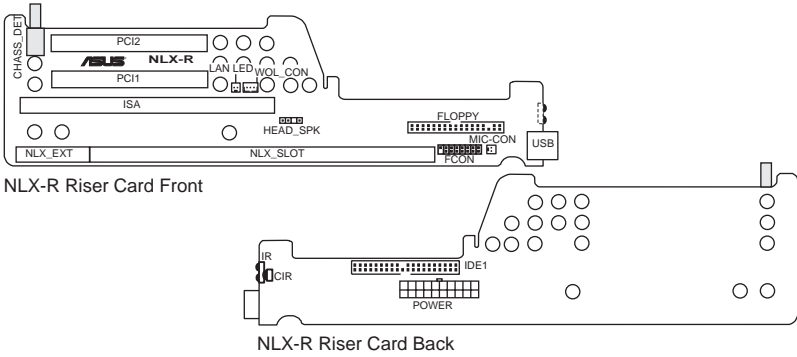
マザーボードコネクタ

- | | |
|------------------------|-----------------------------------|
| 1) CHASIS_, CPU_FAN | p.32 シャーシ & CPU ファンコネクタ (3ピン x 2) |
| 2) CDROM | p.32 CDROMコネクタ (50-1ピン) |
| 3) CD_INAUX_INMODEM_IN | p.33 内部オーディオコネクタ (4ピン x 4) |
| 4) JACK_CON | p.33 オーディオジャックコネクタ (10-1ピン) |
| 5) LCDHD | p.34 LCD出力端子 (20-1ピン) |

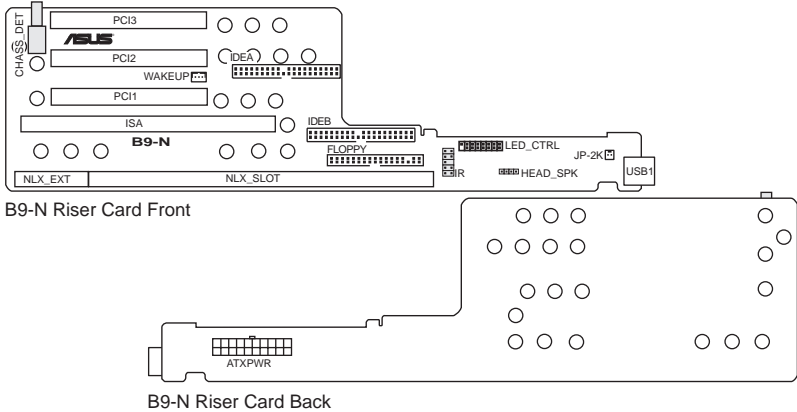
3. ハードウェアセットアップ

3.2 ライザーカードレイアウト

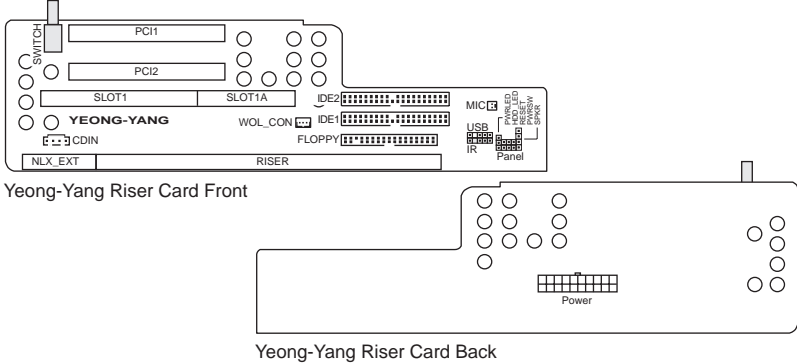
3.2.1 NLX-R



3.2.2 B9-N



3.2.3 Yeong-Yang



3H/Wセットアップ
ライザーカード部品&レイアウト

3. ハードウェアセットアップ

拡張スロット

- | | | |
|-------------------------|------|-------------------|
| 1) ISA (NLX-R) | p.27 | 16ビット ISAバス拡張スロット |
| ISA (B9-N) | | 16ビット ISAバス拡張スロット |
| SLOT1/1A (Yeong-Yang) | | 16ビット ISAバス拡張スロット |
| 2) PCI1, PCI2 (NLX-R) | p.27 | 32ビット PCIバス拡張スロット |
| PCI1, PCI2, PCI3 (B9-N) | | 32ビット PCIバス拡張スロット |
| PCI1, PCI2 (Yeong-Yang) | | 32ビット PCIバス拡張スロット |

コネクタ

- | | | |
|--------------------------|------|---|
| 1) LAN_LED (NLX-R) | p.35 | LANアクセスコネクタ (2ピン) |
| WOL_CON (NLX-R) | | LANアクセスコネクタ (3ピン) |
| WAKEUP (B9-N) | | LANアクセスコネクタ (3ピン) |
| WOL_CON (Yeong-Yang) | | LANアクセスコネクタ (3ピン) |
| 2) MIC-CON (NLX-R) | p.35 | フロントパネルマイクコネクタ (2ピン) |
| JP-2K (B9-N) | | フロントパネルマイクコネクタ (2ピン) |
| MIC (Yeong-Yang) | | フロントパネルマイクコネクタ (2ピン) |
| 3) POWER (NLX-R) | p.36 | NLX電源コネクタ (20ピン) |
| ATXPWR (B9-N) | | NLX電源コネクタ (20ピン) |
| Power (Yeong-Yang) | | NLX電源コネクタ (20ピン) |
| 4) IDE1 (NLX-R) | p.36 | IDEコネクタ (40-1ピン) |
| IDEA, IDEB (B9-N) | | IDEコネクタ (40-1ピン) |
| IDE1, IDE2 (Yeong-Yang) | | IDEコネクタ (40-1ピン) |
| 5) FLOPPY (NLX-R) | p.37 | 3.5"フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピン) |
| FLOPPY (B9-N) | | 3.5"フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピン) |
| FLOPPY (Yeong-Yang) | | 3.5"フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピン) |
| 6) USB (NLX-R) | p.37 | Universal Serial Bus (USB)ポート (4ピンソケットx2) |
| USB1 (B9-N) | | Universal Serial Bus (USB)ポート (4ピンソケットx2) |
| USB (Yeong-Yang) | | USBモジュールコネクタ (5-1ピン) |
| 7) IR, CIR (NLX-R) | p.38 | IrDA準拠赤外線モジュール (Lenses) |
| IR (B9-N) | | 赤外線モジュールコネクタ (10-1ピン) |
| IR (Yeong-Yang) | | 赤外線モジュールコネクタ (5-1ピン) |
| 8) CDIN (Yeong-Yang) | p.39 | ステレオオーディオ入力コネクタ (4ピン) |
| 9) FCON/HEAD_SPK (NLX-R) | p.39 | フロントパネルコネクタ (16-1ピン) |
| LED_CTRL/HEAD_SPK (B9-N) | | フロントパネルコネクタ (16-1ピン) |
| Panel (Yeong-Yang) | | フロントパネルコネクタ (13ピン) |

(空白ページです)

3. ハードウェアセットアップ

3.3 ハードウェアセットアップ手順

注：以下の手順は、マザーボードが対応する筐体にすでに設置されていることを前提としています。

コンピューターを使う前に、次の手順に従ってインストールしてください。：

1. マザーボード設定のチェック
2. メモリーモジュールのインストール
3. 中央処理装置 (CPU) のインストール
4. 拡張カードのインストール
5. リボンケーブル、電源装置などの配線 (ドライブ類の設置も含む)

3.4 マザーボード設定

ここでは、ジャンパーやスイッチで本マザーボードの機能を設定する方法を説明します。

警告! コンピューターマザーボードや拡張カードは、非常に繊細な集積回路 (IC) チップを使用しています。静電気による損傷を防ぐため、作業するには次に示すような予防策を講じてください。

1. システム内部に触れる場合には、電源プラグを抜いてください。
2. コンピューター部品を扱う前には、接地されたリストストラップ (接地バンド) を使ってください。接地バンドがない場合には、安全に接地された物体、たとえば電源装置のケースの様な金属物体に両手を触れてください。
3. 部品はその端を持ち、ICチップ、端子、コネクタなどの部品に触れないでください。
4. 部品をシステムから分離するときは、必ず接地された静電気防止パッドの上か部品の入っていた袋の上に置いてください。

3. ハードウェアセットアップ

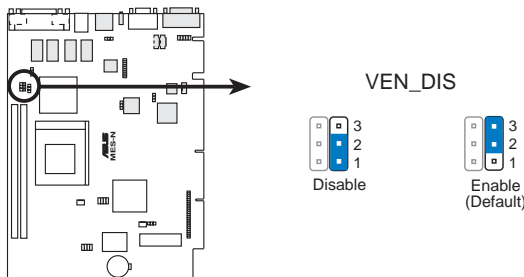
1) キーボードパワーアップ設定 (3-pin KB_UP)

キーボードパワーアップ機能の有効/無効を設定します。キーボードで電源オン(マザーボードに応じ、特定のキーやスペースキーを押す)したい場合にEnabled(有効)にこのジャンパーを設定してください。この機能を使用するには、+5VSB端子に少なくとも300mAを供給することができるNLX電源が必要です。コンピュータにより対応するNLX電源を搭載していない場合があるので、初期設定は[Disabled(無効)]です。対応するNLX電源を搭載していない状態で本項目を[Enabled(有効)]に設定すると、電源オンできない場合があります。

2) オンボードVGA設定 (VEN_DIS)

オンボードAGP VGAの有効(Enabled)/無効(Disabled)設定を行います。拡張スロット上でVGAカードを使用する場合には、オンボードVGAを[Disabled(無効)]に設定してください。

設定	VEN_DIS
Enable	[2-3] (default)
Disable	[1-2]



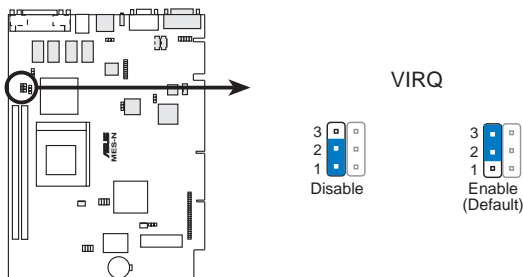
MES-N Onboard VGA Setting

3. ハードウェアセットアップ

3) VGA IRQ設定 (VIRQ)

VIRQでVGA割り込み方法を設定します。テレビチューナーやMPEGカードによっては割り込みを指定する必要があり、VIRQを初期設定の[Enabled(有効)]にしてください。初期設定では、チップセットの内部割り込み機能を有効にします。

設定	VIRQ
Enable	[2-3] (default)
Disable	[1-2]

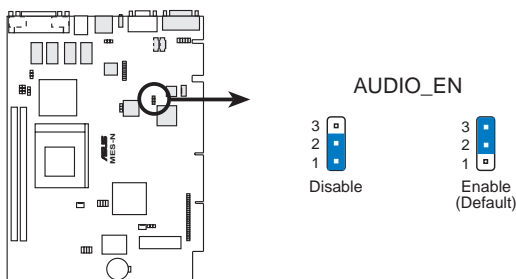


MES-N Onboard VGA IRQ Setting

4) オンボードオーディオ設定 (AUDIOEN)

オンボード32ビットPCIオーディオの有効/無効をジャンパーで設定します。拡張スロットにオーディオカードを取り付けて使用する場合には、オンボードオーディオを[Disabled(無効)]にしてください。**注**：この設定は、オンボードオーディオ(オプション)搭載モデルにのみ有効です。

設定	AUDIOEN
Enable	[2-3] (default)
Disable	[1-2]



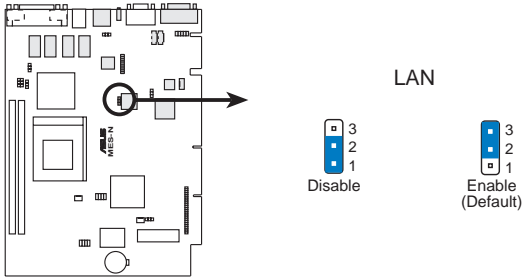
MES-N Onboard Audio Setting

3. ハードウェアセットアップ

5) オンボードLAN設定 (LAN_EN) LANモデルのみ有効

ボード上のLANは、このジャンパーで有効/無効を設定します。

設定	LAN_EN
Enable	[1-2] (default)
Disable	[2-3]

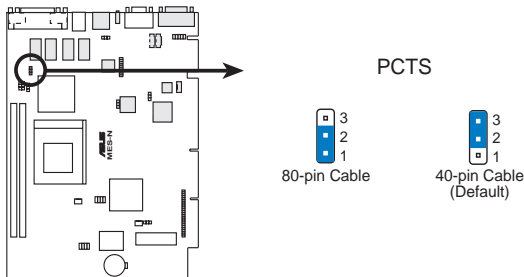


MES-N Onboard LAN Setting

6) プライマリーケーブルタイプ状態 (PCTS)

80-pinにジャンパーを設定すると、40ピン80線IDEケーブルをプライマリーコネクタに接続し、UltraDMA/66IDE機器で最高転送速度66MB/sを実現することができます。

設定	PCTS
40 pin	[2-3] (default)
80 pin	[1-2]



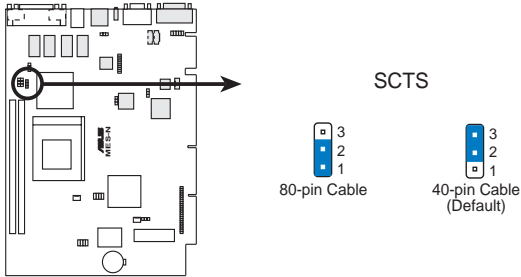
MES-N Primary Cable Type Status

3. ハードウェアセットアップ

7) セカンダリーケーブルタイプ状態 (SCTS)

80-pinにジャンパーを設定すると40ピン80線IDEケーブルをセカンダリーコネクタに接続し、UltraDMA/66IDE機器で最高転送速度66MB/sを実現することができます。

設定	SCTS
40 pin	[2-3] (default)
80 pin	[1-2]



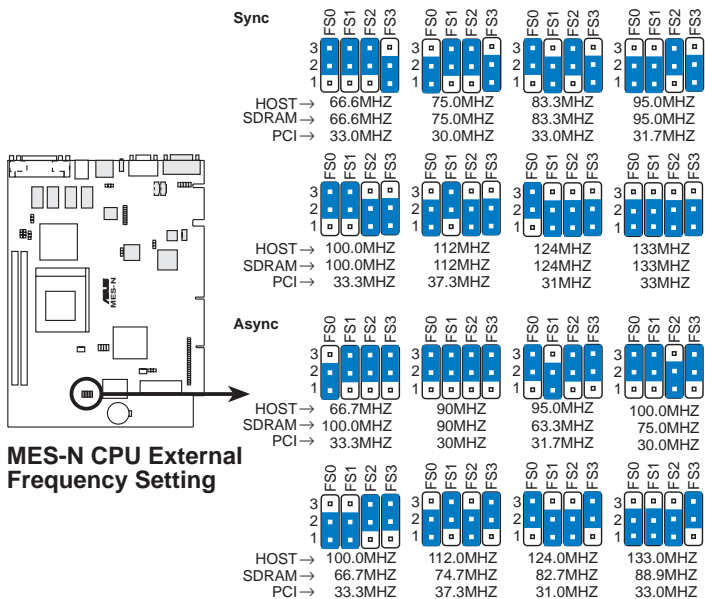
MES-N Secondary Cable Type Status

3. ハードウェアセットアップ

8) CPU外部周波数設定 (FS0, FS1, FS2, FS3)

クロックジェネレーターが、CPU、DRAM、AGPセットに送り出す周波数を指定します。これは、CPU外部周波数の選択です。この外部周波数に周波数倍数を掛けた値が、CPUの内部周波数(CPUの公称スピード)になります。**注**：CPU外部周波数とは独立してメモリスピードを設定できます。使用するメモリータイプPC66(66MHz)がPC100(100MHz)に基づいて、該当するCPUスピードと該当するRAMスピードを選択してください。

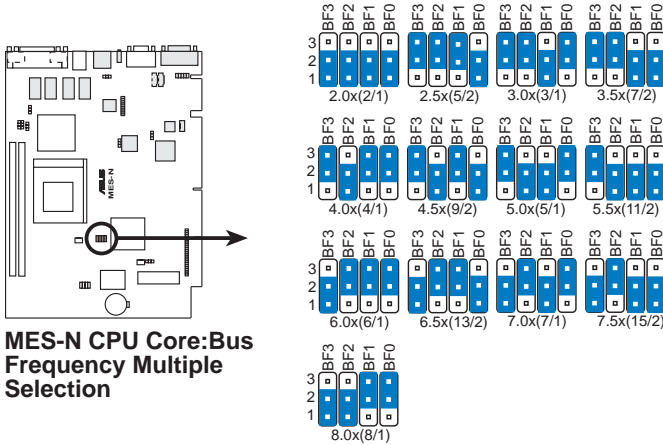
3.H/Wセットアップ
マザーボード設定



3. ハードウェアセットアップ

9) CPU Core:外部周波数倍数設定 (BF0, BF1, BF2, BF3)

CPU内部周波数 - CPU外部周波数間の周波数倍数を設定します。CPU外部周波数に関連して設定してください。



MES-N CPU Core: Bus Frequency Multiple Selection

Set the jumpers by the Internal speed of your processor as follows:

Intel CPU Model	Speed	Mult	Freq.	(CPU外部周波数)				(周波数倍数)			
				FS0	FS1	FS2	FS3	BF3	BF2	BF1	BF0
Celeron (PPGA)	500MHz	7.5x	66MHz	[2-3]	[2-3]	[2-3]	[1-2]	[1-2]	[2-3]	[1-2]	[1-2]
Celeron (PPGA)	466MHz	7.0x	66MHz	[2-3]	[2-3]	[2-3]	[1-2]	[1-2]	[2-3]	[1-2]	[2-3]
Celeron (PPGA)	433MHz	6.5x	66MHz	[2-3]	[2-3]	[2-3]	[1-2]	[1-2]	[2-3]	[2-3]	[1-2]
Celeron (PPGA)	400MHz	6.0x	66MHz	[2-3]	[2-3]	[2-3]	[1-2]	[1-2]	[2-3]	[2-3]	[2-3]
Celeron (PPGA)	366MHz	5.5x	66MHz	[2-3]	[2-3]	[2-3]	[1-2]	[2-3]	[1-2]	[1-2]	[1-2]
Celeron (PPGA)	333MHz	5.0x	66MHz	[2-3]	[2-3]	[2-3]	[1-2]	[2-3]	[1-2]	[1-2]	[2-3]
Celeron (PPGA)	300MHz	4.5x	66MHz	[2-3]	[2-3]	[2-3]	[1-2]	[2-3]	[1-2]	[2-3]	[1-2]

警告! 100MHzを超える周波数は、チップセットの仕様外なので不安定になることがあります。33MHzを超えるPCI周波数は、PCIカードの仕様外なので不安定的になることがあります。

最新プロセッサ設定については、ASUS Webサイトから情報を入手できます(ASUSへの連絡を参照してください)。

3. ハードウェアセットアップ

3.5 システムメモリー (DIMM)

注：メモリーを取り付けたり外したりしても、ハードウェアやBIOSの設定は不要です。

本マザーボードで使用できるのは、Dual Inline Memory Modules (DIMM)だけです。ソケットには、3.3ボルト(電圧レベル)のバッファなしタイプSDRAMを取り付けます。

このSiSチップセットは、ECCをサポートしません。ECCメモリーモジュールを使用することはできますが、ECC機能は無効です。

メモリースピード設定は、4.4.1 Chip Configuration のSDRAM Configurationで行います。

次の組み合わせで、メモリーをインストールします：

DIMMの位置	168ピン DIMM		トータル
ソケット1 (列 0&1)	SDRAM 8, 16, 32, 64, 128, 256MB	x1	
ソケット2 (列 2&3)	SDRAM 8, 16, 32, 64, 128, 256MB	x1	
	トータルシステムメモリー (最高512MB)	=	

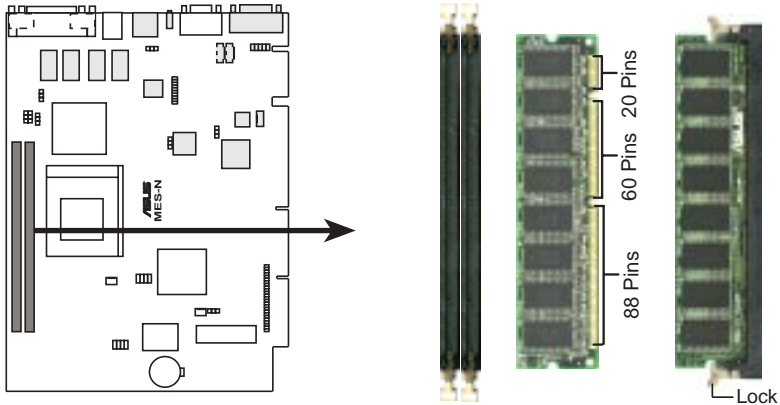
3.5.1 DIMMについて

- **VGA共有メモリーに1DIMMを使用**：オンボードVGAの共有メモリーとして1DIMMだけを使うときは、ソケット1にDIMMを取り付け、ソケット2を空にしてください。
- 本ユーザーマニュアルが作成された時点では、256MB DIMMはレジスタードメモリーか128Mbit DIMMとして有効です。
- **システムバス100MHzで使用するには、PC100準拠DIMMを使ってください**。PC100非準拠メモリーを使用し、本マザーボードを100MHzで作動させようとすると、厳しいタイミング問題のため、システム起動すらできないことがあります。DIMMがPC100準拠でない場合には、システムの安定性を保証するため66MHz RAMに設定してください。注：マザーボードが非同期モードをサポートするなら、66MHzにメモリークロック周波数を設定してください。
- ASUSマザーボードは、SPD (Serial Presence Detect) DIMMをサポートします。最高性能を発揮することができるメモリーの選択です。
- SDRAMチップは、一般にEDO (Extended Data Output) チップより高いピン密度でより薄いです。
- BIOSは、起動画面にSDRAMメモリーを表示します。

3. ハードウェアセットアップ

3.5.2 DIMMのインストール

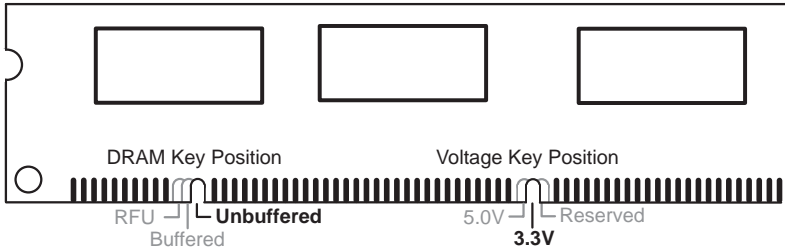
メモリーモジュールをソケットに挿入してください。コネクタ部分は分割されていて、部分ごとのピン数が異なるため、反対方向に差し込むことはできません。図を参照してください。DIMMモジュールはより長く、ピン接点は両側に異なります。したがって、ピン密度も高いです。SIMMモジュールは、両面で同じピン接点です。



MES-N 168-pin DIMM Memory Sockets

本製品では、3.3 VバッファなしタイプのDIMMを使用しなければなりません。DIMMの種類は、DIMMの切れ込みで判別できます(下図参照)。

168-Pin DIMM Notch Key Definitions (3.3V)



DIMMのタイプを確認できるように、刻み目が左、中央、右にシフトしています。このことで、間違ったタイプのDIMMを取り付けることができないようになっているのです。DIMM購入前に、本製品で使用できるものであるかどうかを販売店で確認してください。本製品は、4クロック信号タイプをサポートしています。

3. ハードウェアセットアップ

3.6 中央処理装置 (CPU)

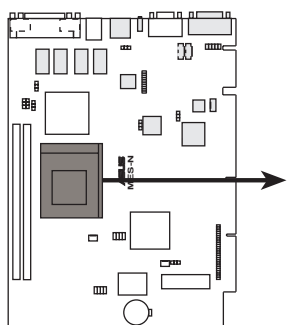
本製品は、ZIFソケット370を搭載しています。CPUには過熱を防ぐためファンを取り付ける必要があります。ファンを付けない状態でシステムの電源を投入しないでください。

警告! プロセッサのヒートシンクを横切って十分な空気が流れるよう、ファンの動作を定期的にチェックしてください。十分な空気循環がないと、プロセッサは過熱し、プロセッサやマザーボードが損傷します。必要に応じ、別のファンもインストールしてください。

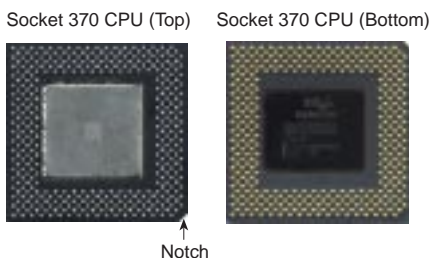
CPUをインストールするため、まずシステムをオフにし、カバーを取り外してください。ZIFソケットの位置を確認し、ソケット側面にあるレバーを横に引き、上に90度起こします。示すように正しい方向にCPUを挿入してください。面取りされた角がレバーの端の方になるようにします。CPUの4角の内、2つにはコーナーピンがあるので、CPUは一方方向のみに取り付けることができます。図を参考として掲載します。CPUファンは、CPUを覆うタイプのもを使用してください。CPUにファンを取り付けた場合には、ファンの重さが加わるのでCPUの挿入は簡単です。CPUを完全に挿入したら、ソケットのレバーを降ろして固定してください。

注：システムを起動する前に、ソケット370プロセッサに正しいバス周波数・倍数を設定してください。ソケット370プロセッサは、内部温度検出機能を持っているので、別途温度センサーをソケットに搭載する必要はありません。

注意! プロセッサファンを取り付ける際に、マザーボードをひっかいたりしないようにしてください。マザーボードが損傷することになります。



MES-N Socket 370



3. ハードウェアセットアップ

3.7 拡張カード

警告! 拡張カードやその他の部品を取り付けたり取り外したりする際には、事前に電源プラグを抜いてください。そうしないと、マザーボードや拡張カードに損傷を与える場合があります。

3.7.1 拡張カードインストール手順

1. 取り付ける拡張カードの付属文書を読み、必要に応じてジャンパー設定などを行ってください。
2. 筐体のカバーを外し、カードを取り付けるスロットに対応したバックパネルの金具を取り外してください。取り外した金具は、将来使うことがあるので保存してください。
3. カードコネクタに合わせて慎重にしっかりと押し込みます。
4. カードの取り付けを確認したら、先に金具を止めていたネジでカードを取り付けてください。
5. 筐体のカバーをもと通りに取りつめます。
6. 必要に応じBIOSを設定してください。
(例: *IRQ xx Used By ISA* を Yes にする)
7. カードの使用に必要なソフトウェアドライバーをインストールしてください。

3.7.2 拡張カードへのIRQ割り当て

拡張カードは、使用するためにIRQを割り当てる必要があります。一般に、IRQは使用する機器について個別に割り当てる必要があります。標準的な設計では、16個のIRQがあります。しかし、システムが利用しているものがあるため、拡張カードのためには6個のIRQのみが残されています。マザーボードにPCIオーディオが搭載されている場合には、PCIオーディオがIRQを使用し、5つのIRQが残ります。マザーボードにISAオーディオが搭載されている場合には、ISAオーディオがIRQを使用し、3つのIRQが残ります。

通常、ISAカードもPCIカードもIRQを使用します。システムIRQは最初にISA拡張バスに取り付けられたカードに利用されます。そして、次にPCIカードに利用されます。現在、2種類のISAカードがあります。

オリジナルのISA拡張カード、現在レガシーISAカードと呼ばれるものは、手動でカードジャンパーを設定して、それから利用できるISAバススロットに取り付けます。使用しているIRQや空いているIRQのマップをWindows 98で参照するには、「マイコンピュータ」-「コントロールパネル」-「システム」-「デバイスマネージャ」タブを順次選択します。特定のハードウェアデバイス上でダブルクリックすると、割り込み番号とアドレスを示すリソースタブが表示されます。複数の機器が同じIRQを使用すると、その機器を使用する際に、使用できないなどの問題が発生します。

3. ハードウェアセットアップ

この割り当て手順を単純化するためには、自動的にIRQなどを割り当てる機能を搭載したプラグアンドプレイ (PNP) 仕様を満たすカードを使用してください。本マザーボードはPNP対応です。

PNP ISAカードとLegacy ISAカードが取り付けられている場合には、Legacy ISAカードで使用されていないIRQをPNP ISAカードに割り当てます。BIOSセットアップユーティリティのPCI and PNP configurationで、どのIRQが使用されているかどうかを知ることができます。かなり古いISAカードでBIOSを使用しないものを使いたい場合には、販売店、メーカーに相談してIRQを割り当ててください。

Legacy ISAカードとPNP ISAカードにIRQを割り当てた後、PCIカードに自動的にIRQが割り当てられます。PCIバスの設計では、PCIスロットに取り付けられたIRQを要求するカードにBIOSが自動的にIRQを割り当てます。PCIカードを使用するには、INT割り当てが必要です。本製品のPCIスロットはINTA #を使うので、取り付けられるPCIカードはINT Aに設定してください。

3.7.3 ISAカードへのDMAチャンネル割り当て

ISAカードの中には、Legacyタイプ・PNPタイプを問わず、DMA (Direct Memory Access) チャンネルを使うものがあります。本マザーボードでのDMA割当ては、先のIRQ割当て手順と同じです。DMAチャンネルを選択するため、**4.4.3 PCI Configuration**の**PCI/PNP ISA DMA Resource Exclusion**を参照してください。注：ボード上のオーディオは初期設定でDMA1を使います。

重要：コンフリクトを避けるため、必要なIRQとDMAをLegacy ISAカードに設定してください (**4.4.3 PCI Configuration**の**PCI/PNP ISA IRQ Resource Exclusion**と**PCI/PNP DMA IRQ Resource Exclusion**を参照)。IRQ xx Used By ISA・DMA x Used By ISAなどを必要に応じYesに設定します。

3. ハードウェアセットアップ

3.8 外部コネクター

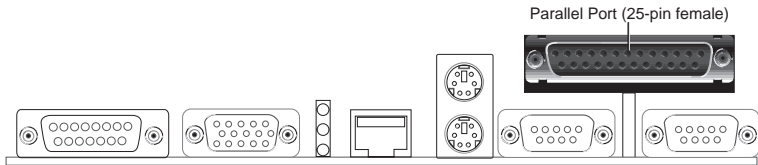
警告! ピンの中にはコネクターや電源に使用されるものがあります。これらは、**3.1 マザーボードレイアウト**に示されています。これらのピンにジャンパーキャップをかぶせるとマザーボードを壊します。

重要: リボンケーブルは、赤いストライプのある側をコネクターのピン1に接続しなくてはなりません。ピン1は、通常、ハードディスクやCD-ROMドライブの電源コネクターに最も近い側にあります。フロッピーディスクドライブの中には反対側にあるものもあります。例外もあるので、取り付け前にコネクターをチェックしてください。IDEリボンケーブルは、46センチ(18インチ)未満の長さものを使用してください。2つのコネクターは15センチ(6インチ)以内でなくてはなりません。

3.8.1 バックパネルコネクター

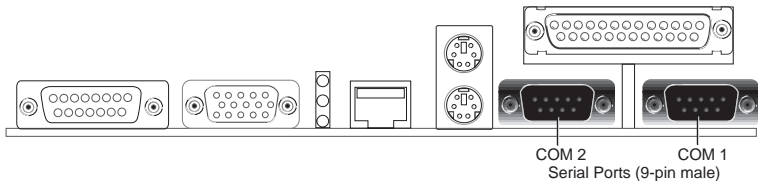
1) パラレルコネクター (25ピン PRINTER)

パラレルポートの有効/無効、IRQを選択することができます(4.4.2 I/O Device ConfigurationのOnboard Parallel Portを参照してください)。注: シリアルプリンターは、シリアルポートに接続してください。



2) シリアルポートコネクター (9ピン COM1 & COM2 x 2)

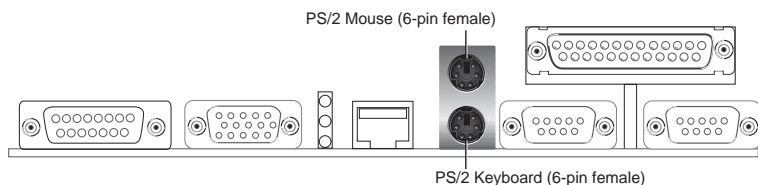
ポインティングデバイスや他のシリアル機器のため、2つのシリアルポートを用意しています。設定について、**4.2.2 I/O Device Configuration**のOnboard Serial Port 1とOnboard Serial Port 2を参照してください。



3. ハードウェアセットアップ

3) PS/2 マウスコネクター

システムは、PS/2マウスにIRQ12を自動的に割り当てます。もしPS/2マウスが検出されない場合には、拡張カードがIRQ12を使うことができます。4.4 *Advanced Menu* の **PS/2 Mouse Function Control** を参照してください。

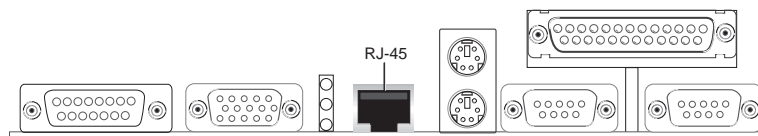


4) PS/2 キーボードコネクター (6ピン PS2KBMS)

標準のPS/2キーボードコネクター (mini DIN) を取り付けるコネクターです。サイズの大きい標準A Tキーボードを取り付けることはできません。A Tキーボードコネクターを取り付ける場合にはアダプターを使って下さい。

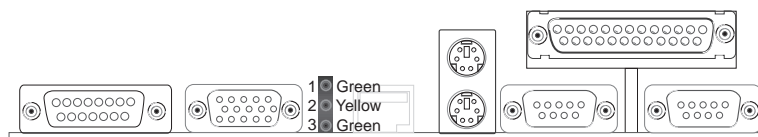
5) Fast-Ethernet Port Connector (RJ-45)

RJ45コネクターは購入時オプションです。このコネクターは、ネットワークハブを通じ、LANに接続する際に使用します。



6) LAN状態表示LED (LAN_LED)

これらの状態表示LEDは、ネットワークコネクターやケーブル、ハブに関する問題を解決する助けになります。

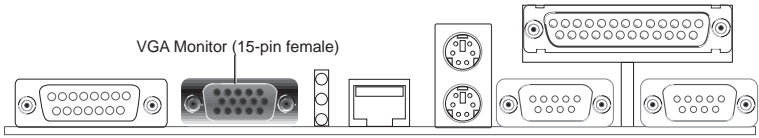


	LED オン	LED オフ
1 速度	10Mbps	100Mbps
2 状態	データなし	データ転送
3 リンク	不良	良

3. ハードウェアセットアップ

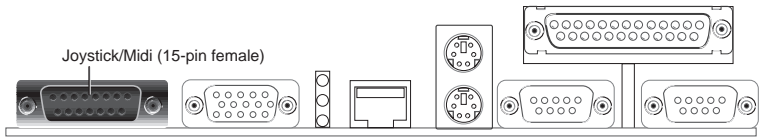
7) モニターコネクタ (15ピン VGA)

このコネクタにはVGA互換機器を接続します。



8) Joystick/MIDI コネクタ (15ピン GAME)

ゲームをするために、ゲームジョイスティックやゲームパッドをコネクタに接続することができます。高性能オーディオを再生・編集するMIDI機器を接続してください。



3. ハードウェアセットアップ

3.8.2 ミッドボードコネクタ

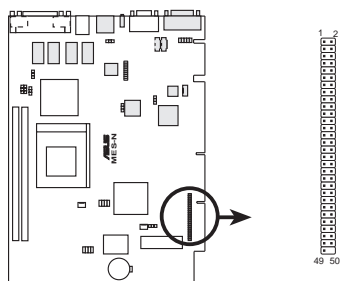
1) シャーシ & CPU ファンコネクタ (3ピン CHASIS_, CPU_FAN)

これらのコネクタは500mA (6ワット)以下のクーラーファンに電源を供給します。ヒートシンクのフィンを、拡張スロットの方ではなくボード上のヒートシンクに風を送るような向きで取り付けして下さい。ファン製造業者によって、配線とプラグの形状は異なるかもしれません。通常、赤がプラスで黒がグラウンドです。プラスやグラウンドが正しくなるようにプラグを取り付けて下さい。
注：Rotation信号は、Rotation信号を使うことができるファンでのみ使用します。

警告! 気流がCPUと搭載されたヒートシンクを横切っていないと、CPUやマザーボードは過熱します。これらのピンを間違えて使うと、マザーボードやCPUファンに損傷を与えます。これらはジャンパーではないので、決してジャンパーキャップを取り付けしないで下さい。

2) CD-ROMコネクタ (50-1ピン CDROM)

CD-ROMコネクタで、スリムCD-ROMに接続するためにはコンバーターが必要です。スリムCD-ROMのみ、NLXシステム筐体に適合します。

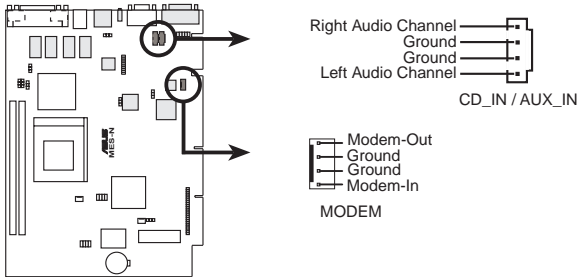


MES-N CD-ROM Drive Connector

3. ハードウェアセットアップ

3) 内部オーディオコネクタ (4ピン CD_IN / AUX_IN)

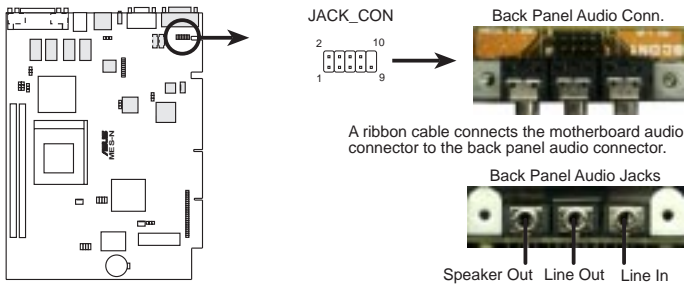
これらのコネクタは、CD-ROM、テレビチューナー、MPEGカードなどからステレオオーディオ入力に使用します。



MES-N Internal Audio Connectors

4) オーディオジャックコネクタ (10-1ピン JACK_CON)

オーディオ入出力信号用端子です。

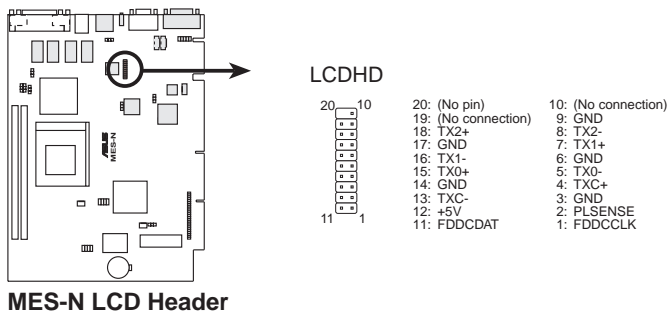


MES-N Audio Jack Connector

3. ハードウェアセットアップ

5) LCD端子 (20-1ピン LCDHD)

この端子には、デジタルLCDケーブルコネクタが必要です。デジタルLCDケーブルをLCD端子に接続し、筐体の空いている拡張スロットに金具を取り付けてください。**注**：CRTとデジタルLCDモニターが同時に使用される場合には、CRTが優先します。この端子はデジタルLCDパネル用です。アナログLCDパネルが15ピンVGAケーブルコネクタ付きの場合は、モニターコネクタに接続します。**注**：このコネクタは、オプションのデジタルフラットパネル(DFP)インターフェースをサポートしたモデルのみ有効です。



MES-N LCD Header

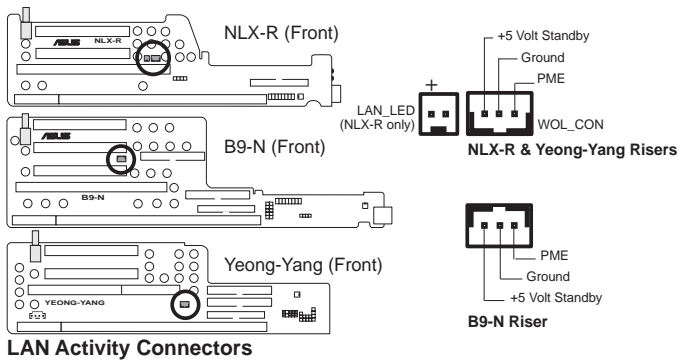
3. ハードウェアセットアップ

3.8.3 ライザーカードコネクタ

1) LANアクセスコネクタ

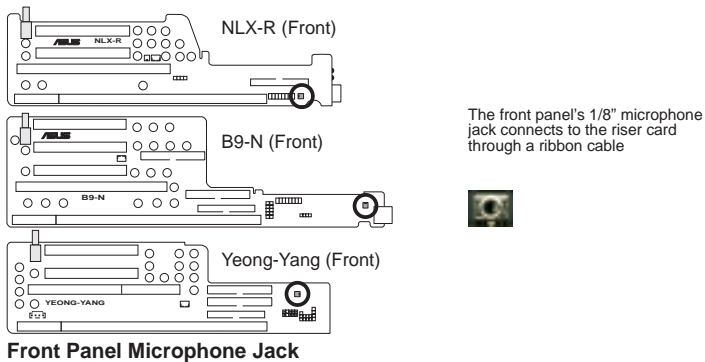
このコネクタは、ASUS PCI-L101 (7.1 ASUS PCI-L101 ファストイサ
ネットカード参照) のようなデータ転送状態信号を出力できる Local Area Net-
work (LAN) カードをサポートします。LAN_LEDコネクタは、ネットワーク
とコンピューター間のデータ転送状態を表示するフロントパネルのLEDに接続
します。WOL_CONコネクタを使用すると、ウェイクアップパッケージ (信
号) がネットワークから受信するとシステム電源をオンすることができます。

重要 : 本機能を使用するには、Wake On LANがEnabledに設定され (4.5.1
Power Up Control 参照)、最低720 mA +5Vスタンバイ電源を確保するNLX電
源が必要です。



2) フロントパネルマイクコネクタ

リボンケーブルで、フロントパネルマイクジャックとマザーボードを接続します。

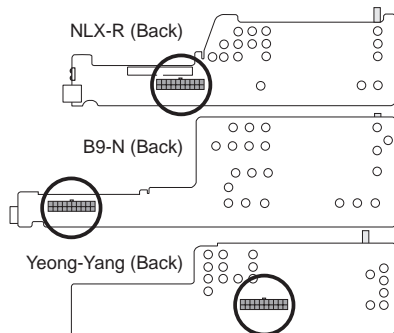


3. ハードウェアセットアップ

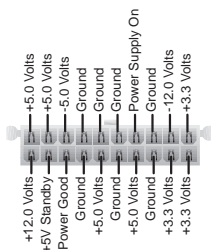
3) NLX電源コネクタ

このコネクタにはNLX電源を接続します。ATX電源コネクタは、穴の大きさにより一方向にしか取り付けることができないようになっています。正しい方向に差し込み、確実にしっかりと取り付けてください。

重要：最低720mA +5Vスタンバイ電源を確保するNLX電源が必要です。この仕様を満たさない筐体を使った場合には、電源のオンについて正常に動作しないかもしれません。Wake-on-LANを利用するためには、NLX電源が少なくとも720mA +5VSBを供給できなくてはなりません。

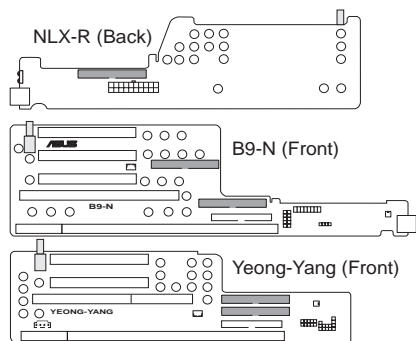


NLX Power Supply Connector

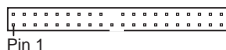


4) IDE Connectors

本コネクタには、付属のIDEハードディスクドライブリボンケーブルをサポートします。一方の端をライザーカードに接続し、他方の端をハードディスクドライブに接続してください。プライマリーIDEチャンネルは、マスター・スレーブIDE機器をサポートしますが、システムハウジングサイズは標準IDEハードドライブを1台のみ接続することができます。



IDE Connectors



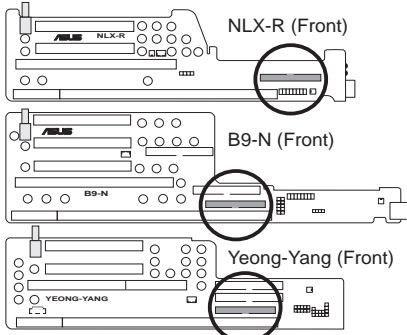
Pin 1
Orient the red stripe on the IDE ribbon cable to Pin 1

重要：UltraDMA/66機器を使うには、40ピン80線ケーブルとUltraDMA MODE4を有効にすることが必要です。

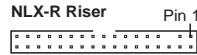
3. ハードウェアセットアップ

5) 3.5" フロッピーディスクドライブコネクター

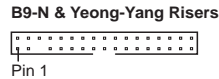
このコネクターには、付属のフロッピードライブリボンケーブルを接続します。片方の端をライザーカードに接続し、他方の端を3.5インチフロッピーディスクドライブに接続してください。(間違った方向に取り付けることのないように、ピン5は取り除かれています。ピン5に穴の空いていないプラグを使ったケーブルの場合に有効です)



Floppy Disk Drive Connector

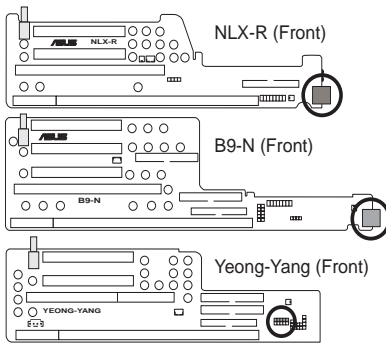


Orient the red stripe on the floppy ribbon cable to Pin 1



6) Universal Serial Bus (USB) ポート / USBモジュールコネクター

NLX-RもしくはB9-Nライザーを取り付けると、2つのUSBポートを使用することができます。Yeong-Yangライザーを使用する場合には、5ピンブロックに外部コネクターセットを接続することができます。このコネクターは、筐体の空いている拡張バススロットに取り付けます。USB機能を有効にするには、USB機能をEnabledに、USB IRQをAutoに設定してください。詳細は、4.4.3 PCI Configurationを参照してください。



Universal Serial Bus (USB) Ports / USB Module Connector

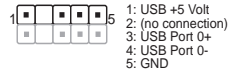
NLX-R & B9-N Risers

Port 1 Port 2



The USB ports show through the front panel

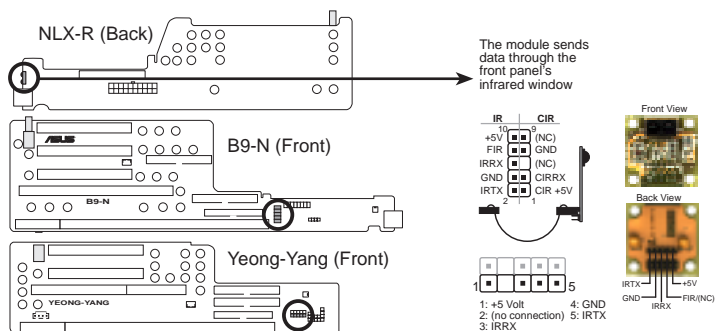
Yeong-Yang Riser



3. ハードウェアセットアップ

7) IrDA準拠赤外線モジュール / 赤外線モジュールコネクタ

NLX-Rライザーは、フロントパネルの赤外線レンズを通じて無線データ送受信を実現するオンボード赤外線モジュールを搭載しています。B9-N・Yeong-Yangライザーは、オプションの無線データ通信用赤外線モジュールをサポートするコネクタを搭載しています。**UART2 Use Infrared** 項目でUART2をCOM2に接続するかIrDAに接続するかを選択してください(4.4.2 I/O Device Configuration 参照)。背面図のような5つのピンを使用し、リボンケーブルでモジュールとマザーボードのIRコネクタを接続します。オプションのコンシューマー赤外線(CIR)セットは、無線データ転送やリモートコントロールを実現するため、CIRとIRコネクタに同時に接続します。

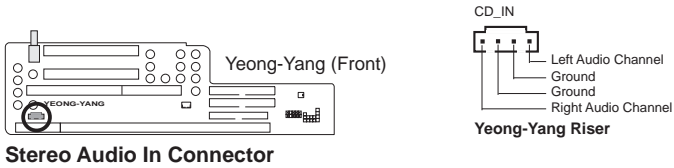


Infrared Module / Infrared Module Connector

3. ハードウェアセットアップ

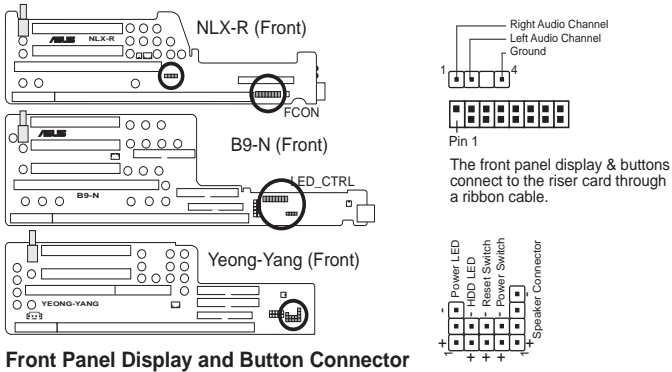
8) ステレオオーディオ入力コネクタ

このコネクタは、内部CD-ROMドライブやその他TVチューナーやMPEGカードのようなステレオサウンド入力に使用します。



9) フロントパネルコネクタ

このコネクタは、フロントパネルのLEDやボタンとマザーボードをリボンケーブルで接続する際に使用します。



(空白ページです)

3. ハードウェアセットアップ

3.9 電源投入手順

1. 接続が終わったら、筐体のカバーを閉じます。
 2. 全てのスイッチをオフにします(筐体によっては○印があります)。
 3. 筐体にACケーブルを接続します。
 4. ACプラグをACコンセントに接続します。
 5. 次の順序で機器の電源を入れます：
 - a. モニター
 - b. 外部SCSI機器(ディジーチェーンの最後の機器から電源を入れて下さい)
 - c. システムの電源。
ATX電源装置でシステム電源をオンにするには、筐体前面のATX電源スイッチをオンにする前に、電源装置の電源をオンにしておく必要があります。
 6. 筐体前面のパワーLEDが点灯します。ATX電源の場合には、ATX電源スイッチを押すとシステムLEDは点灯します。モニター上のLEDが点灯しているか、グリーン機能準拠のシステムが電源スタンバイ機能を搭載したシステムの場合には、オレンジとグリーンに交互に点滅します。システムはパワーオンテストを実行します。テスト中、メッセージが表示されます。電源を投入して30秒以内に何も表示されなければ、パワーオンテストに失敗した可能性があります。ジャンパー設定や接続を再度確認し、必要に応じ購入店に確認してください。
 7. パワーオン中に Delete キーを押しつづけるとBIOSセットアップになります。BIOSの設定については、**4. BIOS SETUP**で説明します。
- * **コンピューターの電源を切るとき**：ATX電源の場合には、OSを終了させてから電源スイッチを押します。Windows 95/98の場合には、「スタート」-「Windowsの終了」を選択し、「電源を切れる状態にする」を選択します。Windowsが終了すると電源も止まります。

注：ATX電力供給でシャットダウンしているときは、「コンピューターの電源を切る準備ができました」というメッセージは現れません。

4. BIOSセットアップ

4.1 フラッシュメモリーライターユーティリティ

AFLASH.EXE : マザーボード上のフラッシュROMチップに新しいBIOSファイルを書き込んで、BIOSをアップデートするフラッシュメモリーライターユーティリティです。BIOSのバージョンは起動中の画面の左上に表示される数字の最後の4桁を見ればわかります。新しいBIOSファイルほど、数字が大きくなります。このファイルは、DOSモードでのみ働きます。

注 : 以下の画面内容は一例です。環境によっては異なることがあります。



重要 : FlashMemoryの後にUNKNOWNと表示された場合、プログラムできないか、またはACPI BIOSでサポートされていないかのどちらかです。それゆえ、フラッシュメモリーライターユーティリティで書き換えることはできません。

4.1.1 メインメニュー

1. Save Current BIOS To File

このオプションは、再インストールする場合にそなえてオリジナルのマザーボードBIOSをコピーして保存します。フロッピーディスクに**AFLASH.EXE**とBIOSファイルを保存しておく方がよいでしょう。

現在のBIOSを保存するには、メインメニューで**1.**を入力しEnterキーを押してください。**Save Current BIOS To File**画面が表示されます。ファイル名とパス、たとえば**A:¥XXX-XX.XXX**を入力し、Enterキーを押してください。



4. BIOSセッティング

2. Update BIOS Including Boot Block and ESCD

このオプションは、ブートブロック(ベースボードBIOS)をアップデートします。ACPIは、システム構成データ(ESCD)パラメーターブロックを新しいBIOSファイルから拡張します。アップデートされたBIOSのダウンロードについて、次のページを参照してください。

現在のBIOSをアップデートするには、**メインメニュー**で**2.**を入力し、Enterキーを押してください。

Update BIOS Including Boot Block and ESCD画面が表示されます。新しいBIOSのパスとファイル名、たとえば **A:¥XXX-XX.XXX** を入力しEnterキーを押して下さい。

BIOSアップデートを確認する画面で**Y**を押すと、アップデートが始まります。

ユーティリティは、フラッシュROMに新しいBIOS情報をプログラムします。プログラミングが終了すると **Flashed Successfully** と表示されます。

後は画面の指示にしたがって進めてください。



4. BIOSセットアップ

4.1.2 BIOSの管理とアップデート

コンピューターシステムを最初にご使用の時

1. DOSプロンプトから[FORMAT A : /S]を実行し、起動可能なフロッピーディスクを作成します。
2. 作成した起動ディスクにAFLASH.EXEをコピーします。
3. 作成したディスクから起動し、AFLASH.EXEを実行します。**1.Save Current BIOS to File**を選択してください。詳細は、先の**1.Save Current BIOS to File**を参照してください。

BIOSアップデートの手順（必要なときのみ）

1. インターネット(WWWかFTP)かBBS(3ページのASUS連絡先を参照してください)からアップデートされたASUS BIOSファイルをダウンロードし、先に作成したディスク(AUTOEXEC.BATとCONFIG.SYSを作成せずに起動可能なフロッピー)に保存します。
2. 先に作成したディスクからシステムを起動して下さい。
3. MS-DOSプロンプトでAFLASHと入力し、Enterキーを押してください。
4. **メインメニュー**で**2**を入力し、Enterキーを押してください。詳細は、先述した**2.Update BIOS Including Boot Block and ESCD**を参照してください。

警告! BIOSアップデート中に問題が発生しても、システムの電源を切ってはいけません。システムの起動ができなくなるかもしれません。以上の課程を繰り返し、依然として問題が生じるなら先に作成した元のBIOSファイルをアップロードしてください。フラッシュメモリーライターユーティリティが完全なBIOSファイルをダウンロードできなかったときは、システムが起動できないかもしれません。販売店にご相談下さい。

4. BIOSセットアップ

4.2 BIOSセットアッププログラム

4.1フラッシュメモリアイターユーティリティで説明しましたが、本マザーボードはプログラム可能EEPROMをサポートします。

マザーボードを最初に設置したり、システムを再構成したり、**Run Setup**と表示された場合にBIOS設定を行います。ここでは、このセットアップユーティリティを使い、システムを構成する方法を説明します。

現在セットアッププログラムを使う必要はないとしても、将来、コンピューターの環境構成を変えることがあるかもしれません。例えば、セキュリティパスワードを設定したり、電源管理設定を変更するような場合です。BIOSセットアッププログラムを使い設定を変更すると、その設定がEEPROMのCMOS RAMに記録されます。

本マザーボードのEEPROMは、セットアップユーティリティを格納しています。コンピューターの電源を入れたら、このプログラムを起動してください。コンピューターの電源を入れると実行されるパワーオンセルフテスト (POST) 中にDeleteキーを押すと、セットアップユーティリティが起動します。Deleteキーを押すタイミングが遅れると、テストルーチンが続行されます。セットアップをする必要があるならば、<Ctrl> + <Alt> + <Delete> キーを押すか、または筐体のリセットボタンを押してシステムを再起動してください。また、どうしても前述の2つの方法がうまくいかない場合は、電源を切って再び電源を入れることにより再起動することもできます。

セットアッププログラムは、設定変更を容易に行えるように作られています。このBIOSセットアッププログラムは、様々なメニューを選択し、項目を設定するメニュー式プログラムです。設定を変更してしまい、以前の設定に戻りたいときに使用できるよう、Setupプログラムにはホットキー機能があり、前の値に戻すことができます。ホットキーの詳細は、本章で説明します。

BIOSセットアッププログラムにアクセスするには、システム起動時のPOST後に<Delete>キーを押します。

注：BIOSソフトウェアは、常にアップデートされています。ここで紹介している画面はあくまでも説明の便宜を図るための参照用です。実際とは異なることもあります。

4. BIOSセットアップ

4.2.1 BIOSメニューバー

画面の最上部には、次の項目を選択できるメニューバーがあります。

- MAIN** 基本的システム構成を設定します。
- ADVANCED** 詳細設定を行います。
- POWER** Power Management(節電)機能を設定する場合に使用します。
- BOOT** オペレーティングシステムを読み込む機器に関して設定します。
- EXIT** 表示されているメニューを終了したり、セットアッププログラムを終了する際に使用します。

メニューバーの項目にアクセスするには、左右矢印キーで目的の項目を選択してください。選択した項目は反転表示されます。

4.2.2 操作説明バー

セットアップ画面の下部に、操作キーの説明があります。この操作キーでセットアップメニューを操作します。操作キーとその機能は次の通りです。

操作キー	機能説明
<F1> / <Alt + H>	セットアップの一般ヘルプ画面を表示します。
<Esc> / <Alt + X>	Exitメニューがメインメニューに移動します。
/ (左右矢印キー)	左右の項目を選択します。
/ (上下矢印キー)	項目を選択します。選択された項目は反転表示されます。
- (マイナスキー)	反転表示された項目の数値を少なくします。
+ (プラスキー)/スペースキー	反転表示された項目の数値を多くします。
<Enter>	反転表示項目の選択メニューを表示します。
<Home> / <PgUp>	カーソルを最初の項目へ移動します。
<End> / <PgDn>	最後の項目へカーソルを移動します。
<F5>	表示されている画面に初期値(Setup Defaults)を読み込みます。
<F10>	設定を保存しセットアップを終了します。

4. BIOSセットアップ

General Help

各項目固有のヘルプであるItem Specific Helpに加え、一般ヘルプであるGeneral Helpを搭載しています。この画面は、メニュー上で<F1>か<Alt> + <H>を押すと表示できます。General Help画面には、各操作キーと機能が表示されます。

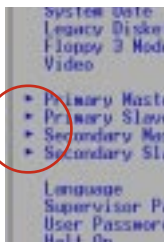
Saving Changes and Exiting the Setup Program

セットアップの終了に関する詳細は、**4.7 Exit Menu**を参照してください。

スクロールバー

開いているウインドウに表示しきれない情報がある場合には、スクロールバーがヘルプ画面の右に表示されます。<PgUp>・<PgDn>、上下矢印キーで下面をスクロールさせて、すべての情報を参照してください。<Home>で最初のページに、<End>で最後のページへ移動します。ヘルプ画面を終了するには<Enter>か<Esc>を押してください。

Sub-Menu



各項目の左側に印がついている場合があります。この印は、印のついている項目にSubMenu(サブメニュー)があることを示しています。サブメニューは、その項目にさらに設定する項目がある場合に使用されます。サブメニューを表示するには、カーソルを移動させて項目を反転表示させ<Enter>を押してください。サブメニューが表示されます。サブメニューが表示されたら、メインメニューと同じように操作キーでサブメニュー項目を設定してください。メインメニューに戻るには<Esc>キーを使います。

操作キーと対応する機能について、慣れるまで時間が必要な場合があります。メニュー、サブメニューを操作し、練習してみてください。偶然に意図しない設定をした場合には、<F5>キーを押すと初期設定に戻ります。設定画面で、各メニューの右側Item Specific Helpに説明が表示されます。この画面は現在反転表示された項目のヘルプテキストを示します。

注：括弧中に初期設定値を示します。

4. BIOSセットアップ

4.3 Mainメニュー

セットアッププログラムにアクセスすると次の画面が表示されます：

System Time [XX:XX:XX]

時刻を設定します(通常は現在時刻)。項目は、時：hour、分：minute、秒：secondです。形式に従って設定してください。時：(00～23)、分：(00～59)、秒：(00～59)。<Tab> または <Shift> + <Tab> キーで、時、分、秒項目を移動できます。

System Date [XX/XX/XXXX]

日付を設定します(通常は現在日付)。項目は、月：month、日：day、年：yearです。形式に従って設定してください。設定可能な値は次の通りです。月：(1～12)、日：(1～31)、年：(100年範囲)。<Tab> または <Shift> + <Tab> キーで、月、日、年項目を移動できます。

Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

取り付けられているフロッピードライブを設定します。設定オプション：[None] [360K, 5.25 in.] [1.2M, 5.25 in.] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.] [2.88M, 3.5 in.]

Floppy 3 Mode Support [Disabled]

日本の旧タイプフロッピードライブをサポートする場合の指定です。Floppy 3 Modeサポートでは、3.5インチディスク1.2 MB(1.44 MBではなく)の読み書きができます。設定オプション：[Disabled] [Drive A] [Drive B] [Both(両方)]

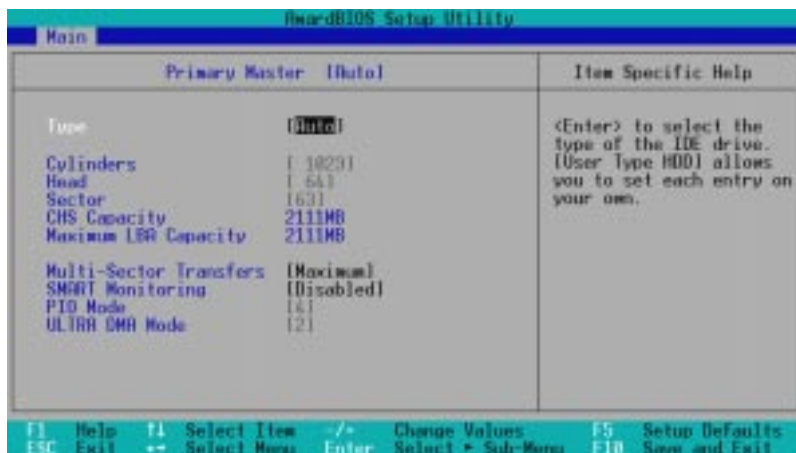
Video [EGA/VGA]

ディスプレイのタイプを設定します。[MONO]は白黒モニター用設定です。それ以外は[EGA/VGA]に設定してください。設定オプション：[EGA/VGA] [MONO]

4. BIOSセットアップ

4.3.1 Primary & Secondary Master/Slave

ここではIDE機器の設定を行います。横向き三角印がある項目は、サブメニューがあることを示しています。設定したい項目をカーソルキーで反転表示し、<Enter> キーを押してサブメニューを表示します。



注：ハードディスクドライブを構成する前に、ハードディスク情報をドライブメーカーから入手してください。不正確に設定すると、システムがハードディスクを認識できません。[Auto]を選択するとBIOSが自動的にドライブタイプを検出します。

Type [Auto]

IDEハードディスクドライブを自動検出させるには [Auto] を選択してください。自動検出が成功したら、正しい値がサブメニューに表示されます。自動検出が失敗した場合には、ハードディスクが非常に古いか非常に新しいかです。BIOSをアップデートするか、手でIDEハードディスクパラメーターを入力してください。

注：IDEハードディスク情報をBIOSに格納した後、新しいハードディスクでデータを読み書きするには、領域を設定し (FDISKで行います)、フォーマットする必要があります。プライマリIDEハードディスクドライブには、領域設定した後アクティブに指定する必要があります (FDISKで行います)。

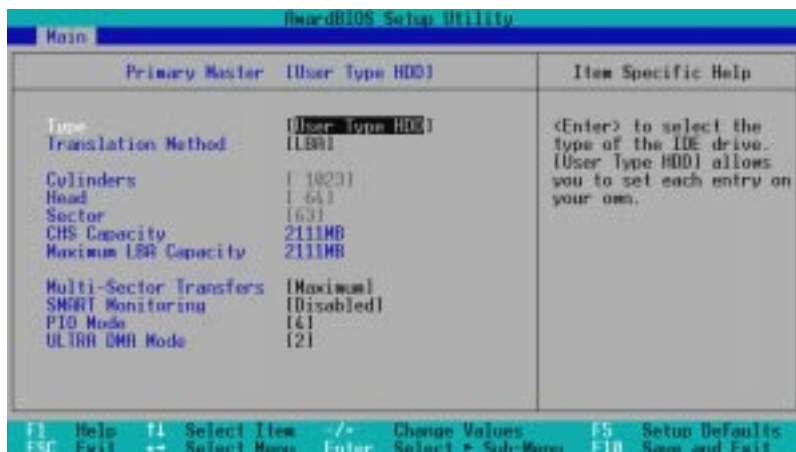
Type 項目の他のオプションは、以下の通りです：

[None] - IDE機器を使用禁止にします。

4. BIOSセットアップ

重要：ハードディスクが、かなり古いシステム上でフォーマットされている場合は、不正確なパラメーターが検出される可能性があります。手動で正しいパラメーターを入力するか、ハードディスク上のデータが不要なら、ローレベルフォーマットしてください。表示されたパラメーターが、ハードディスクがフォーマットされたときのそれと異なるときは、そのディスクは読みません。自動検出されたパラメーターが使用するディスクのものとは一致しない場合には、[User Type HDD]を選択し、手動で入力してください。

[User Type HDD]



シリンダーやヘッド、トラックごとのセクター数を直接入力します。入力する内容に関し、ドライブの付属文書やドライブ上の記述を参照してください。ドライブを接続しない状態の場合には、[None]を選択してください。

Translation Method [LBA]

ハードディスクドライブのタイプを選択してください。論理ブロックアドレス指定 (LBA) が有効のとき、シリンダー、ヘッド、セクターとは関係なく、ハードドライブの28ビットアドレス指定が使われます。LBAではハードディスクのアクセススピードを低下する可能性があります。しかし、LBAモードは、504 MBを超える容量を搭載したドライブを使用する場合に必要です。設定オプション：[LBA] [LARGE] [Normal] [Match Partition Table] [Manual]

Cylinders

シリンダー数を指定します。入力する値は、ドライブの付属文書を参照してください。**注：**ここを変更するには、**Type**は [User Type HDD] に、**Translation Method** は [Manual] に設定してください。

4. BIOSセットアップ

Head

読出/書込ヘッド数を指定します。入力する値は、ドライブの付属文書を参照してください。**注**：ここを変更するには、**Type**は [User Type HDD]に、**Translation Method**は [Manual] に設定する必要があります。

Sector

トラックあたりのセクター数を指定します。入力する値は、ドライブの付属文書を参照してください。**注**：ここを変更するには、**Type**は [User Type HDD]に、**Translation Method**は [Manual] に設定する必要があります。

CHS Capacity

入力された情報から、自動的にBIOSにより計算された最大CHS容量を示します。

Maximum LBA Capacity

入力された情報から、自動的にBIOSにより計算された最大LBA容量を示します。

Multi-Sector Transfers [Maximum]

ドライブによりサポートされる、ブロックごとの最大セクター数を自動的に設定します。また、手動で設定することもできます。自動的に設定した値が、そのドライブの最速値ではないことがあります。ハードディスクに最適の値を手動で入力する場合には、ドライブ付属文書で値を参照してください。**注**：この項目を変更するには、**Type**を [User Type HDD]に指定してください。設定オプション：[Disabled] [2 Sectors] [4 Sectors] [8 Sectors] [16 Sectors] [32 Sectors] [Maximum]

SMART Monitoring [Disabled]

内蔵ハードディスクドライブ監視技術S.M.A.R.T. (Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technology)の有効 (Enabled)・無効 (Disabled)を指定します。この機能で使われるシステムリソースが、システム性能を低下させる可能性があるため、この機能は通常は無効に指定されています。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

PIO Mode [4]

ここでは、IDE機器のPIO (Programmed Input/Output)モードを指定します。0から4と増加するにしたがい、性能も増加します。設定オプション：[0] [1] [2] [3] [4]

Ultra DMA Mode [Disabled]

Ultra DMAは、互換IDE機器でより速い転送速度とデータ完全性を実現します。Ultra DMA機能を抑制するには[Disabled (無効)]に設定してください。**注**：この項目を変更するには、**Type**を [User Type HDD]に設定する必要があります。設定オプション：[0] [1] [2] [3] [4] [Disabled]

4. BIOSセットアップ

Typeの他の設定オプション：

[CD-ROM] - IDE CD-ROM機器

[LS-120] - LS-120互換フロッピーディスクドライブ

[ZIP-100] - ZIP-100互換ディスクドライブ

[MO] - IDE MOドライブ

[Other ATAPI Device] - ここに示されないIDE機器

このサブメニュー上で設定した後、<Esc>キーでMainメニューに戻ってください。Mainメニューが表示されたら、ハードディスクドライブの値がサブメニューで設定した値になっています。

Language [English]

ここでは、BIOSの展示された言語の選択を許します。現在ではEnglishのみ有効です。

Supervisor Password [Disabled] / User Password [Disabled]

ここではパスワードを設定します。パスワードを設定するには、該当する項目を反転表示させ<Enter>を押してください。

パスワード入力し<Enter>を押してください。最高8文字までの英数字を入力できます。記号などのキーは、無視されます。パスワードを確認するため、再度パスワードを入力し、<Enter>を押してください。パスワードが、[Enabled(有効)]に設定されます。このパスワードで、BIOSセットアップメニューに完全アクセスすることができます。

パスワードを消去したいときは、この項目を反転表示させ<Enter>を押してください。上記と同じダイアログボックスが表示されます。<Enter>を押すと、パスワードは[Disabled(無効)]に設定されます。

パスワードについての注意

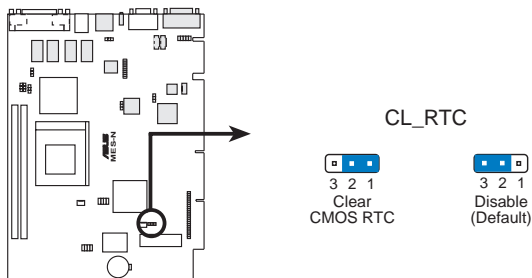
BIOSセットアッププログラムでは、Mainメニューでパスワードを指定することができます。そのパスワードは、BIOSとある種のSecurityメニューオプションへのアクセスを制御します。パスワードには、大文字・小文字の区別はありません。パスワードを小文字で入力しても大文字で入力しても同じです。

BIOSセットアッププログラムでは、Supervisor/パスワードとUserパスワードの、2つの異なるパスワードを指定することができます。Disabled(無効)のときは、誰でもすべてのBIOSセットアッププログラムにアクセスできます。Enabled(有効)のとき、BIOSセットアッププログラムに入り、Securityメニュー項目にアクセスする場合に、Supervisorパスワードが必要です。

4. BIOSセットアップ

パスワードを忘れた場合は？

パスワードを忘れた場合には、CMOS Real Time Clock (RTC) RAMを消去することにより、パスワードをクリアすることができます。パスワード情報を含み、RAMデータは、ボード上のボタン電池により動力を供給されています。RTC RAMを消去するには：(1)コンピュータの電源プラグを抜きます。(2)半田の部分ショートします。(3)コンピュータの電源を入れます。(4)システム起動の間にDeleteキーを押してBIOSセットアップに入り、再度設定します。



MES-N Clear RTC RAM

Halt On [All Errors]

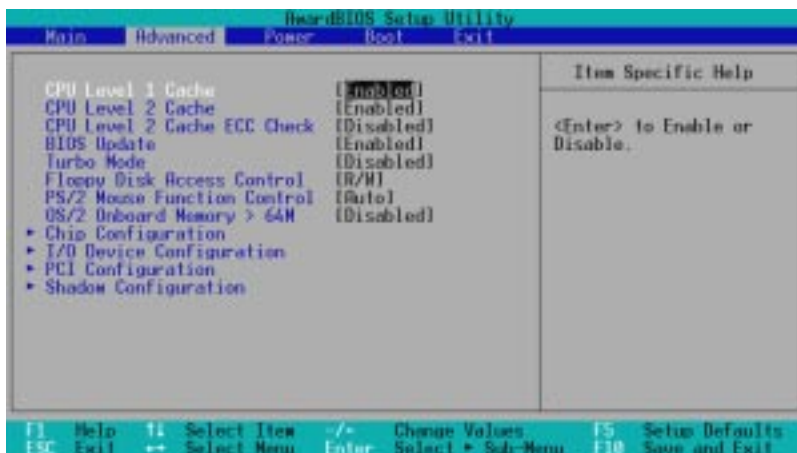
ここでは、システムを停止させるエラーを指定します。設定オプション：[All Errors] [No Errors] [All,But Keyboard] [All,But Diskette] [All,But Disk/Key]

Installed Memory [XXX MB]

起動時に検出された、コンベンショナルメモリー容量を表示します。この項目を変更する必要はありません。ここは、表示のみで変更できません。

4. BIOSセットアップ

4.4 Advanced



CPU Level 1 Cache, CPU Level 2 Cache [Enabled]

これらの項目では、CPUのLevel1とLevel2内蔵キャッシュの有効(Enabled)/無効(Disabled)を選択することができます。

CPU Level 2 Cache ECC Check [Disabled]

ここでは、CPU L2キャッシュのECCチェックについて設定します。

BIOS Update [Enabled]

プロセッサに必要なデータを供給するよう、BIOSにアップデートローダーとしての機能が搭載されています。初期設定の[Enabled(有効)]では、システム起動中、BIOSはすべてのプロセッサにアップデートをロードします。

Turbo Mode [Disabled]

設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Floppy Disk Access Control [R/W]

フロッピーディスクへの書き込みを望まない場合には、データを読むことはできるが書き込むことはできない[Read Only]に設定してください。初期設定の[R/W]は、フロッピーに対し読み書きすることができます。設定オプション：[R/W] [Read Only]

PS/2 Mouse Function Control [Auto]

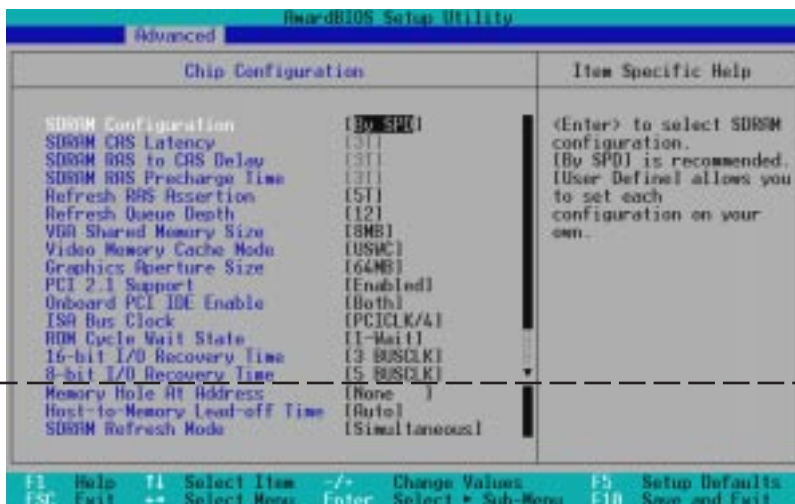
初期設定の[Auto]では、起動時にPS/2マウスを検出します。検出されると、IRQ12がPS/2マウスのために使われます。PS/2マウスが検出されなければ、IRQ12は拡張カードのために予約されます。[Enabled]に設定した場合、起動時にPS/2マウスが検出されなくてもIRQ12が確保されます。

OS/2 Onboard Memory > 64M [Disabled]

64MBを超えるDRAMをインストールしてOS/2を使用するとき、この設定項目を[Enabled]にします。それ以外は[Disabled]にしておきます。

4. BIOSセットアップ

4.4.1 Chip Configuration



SDRAM Configuration [By SPD]

2~4で最適のタイミングをセットします。使用するメモリーモジュールにしたがい、初期設定でお使いください。初期設定は[By SPD]で、SPD (Serial Presence Detect) 機器の内容を解読し、2~4で最適設定します。メモリーモジュール上のEEPROMは、メモリータイプ、サイズ、スピード、電圧インターフェース、モジュールバンクなどの、モジュール関連パラメーター情報を格納しています。設定オプション：[User Define] [7ns (143MHz)] [8ns (125MHz)] [By SPD]

SDRAM CAS Latency

SDRAM読取りコマンドから、データが実際に利用可能になるまでの待ち時間を設定します。**注**：この項目を変更するには、**SDRAM Configuration**を[User Define]に設定してください。

SDRAM RAS to CAS Delay

SDRAMアクティブコマンドと、読取り/書込みコマンド間の待ち時間をコントロールします。**注**：この項目を変更するには、**SDRAM Configuration**を[User Define]に設定してください。

SDRAM RAS Precharge Time

SDRAMへのprechargeコマンド発行後のアイドルクロックをコントロールします。**注**：この項目を変更するには、**SDRAM Configuration**を[User Define]に設定してください。

Refresh RAS Assertion [5T]

設定オプション：[4T] [5T] [6T] [7T]

4. BIOSセットアップ

Refresh Queue Depth [12]

設定オプション : [0] [4] [8] [12]

VGA Shared Memory Size [8MB]

システムメモリー上にオンボードVGA用メモリーとして割り当てるメモリー量を指定します。この項目は、オンボードVGAタイプでボード上にVGAメモリーが搭載されていないマザーボードのみ使用します。設定オプション : [2MB] [4MB] [8MB]

Video Memory Cache Mode [USWC]

USWC (uncacheable, speculative write combining) は、ビデオメモリーのための新しいキャッシュテクノロジーです。ディスプレイデータを格納することによってディスプレイ速度を大幅に改善することができます。使用するディスプレイカードが本機能をサポートしないなら、UC (uncacheable) に設定してください。そうしないと、システムが起動できなくなります。設定オプション : [UC] [USWC]

Graphics Aperture Size [64MB]

AGPのテクスチャー用に使用するメインメモリー上のアパチャーサイズを指定します。設定オプション : [4MB] [8MB]...[64MB] [128MB] [256MB]

PCI 2.1 Support [Enabled]

パッシブリリースやディレイトランザクションなどを含む、PCI 2.1機能の使用、または不使用を設定します。設定オプション : [Disabled] [Enabled]

Onboard PCI IDE Enable [Both]

各IDEチャンネルを有効にするかどうかの設定です。[Both]で両チャンネルが有効です。設定オプション : [Both] [Primary] [Secondary] [Disable]

ISA Bus Clock [PCICLK/4]

設定オプション : [7.159MHz] [PCICLK/4] [PCICLK/3]

ROM Cycle Wait State [1-Wait]

設定オプション : [4-Wait] [1-Wait]

16-bit I/O Recovery Time, 8-bit I/O Recovery Time

初期設定を変更しないでください。

Memory Hole At Address [None]

アドレス空間を要求するISA拡張カードに、アドレス空間を予約することができます。設定オプション : [None] [15M-16M] [14M-16M] [12M-16M]

Host-to-Memory Lead-off Time [Auto]

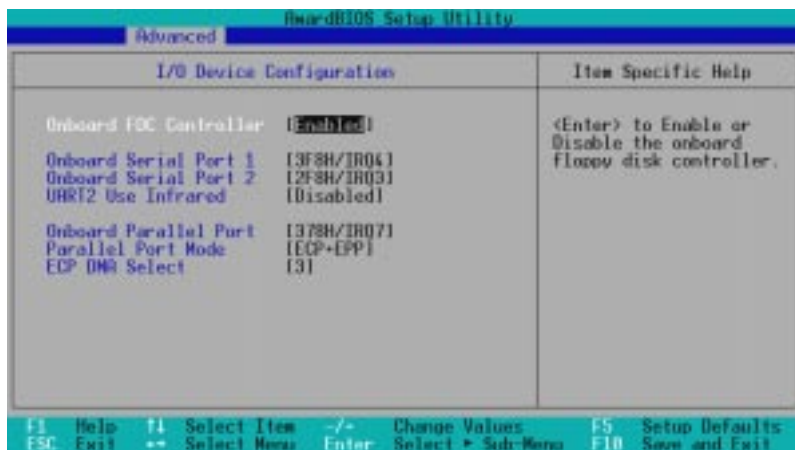
設定オプション : [9T] [Auto]

SDRAM Refresh Mode [Simultaneous]

設定オプション : [Stagger] [Simultaneous]

4. BIOSセットアップ

4.4.2 I/O Device Configuration



Onboard FDC Controller [Enabled]

[Enabled]のとき、セパレートコントローラーカードの代わりにオンボードフロッピーディスクドライブコネクタにフロッピーディスクドライブを接続することができます。フロッピーディスクを使用するのに別のコントローラーカードを使用する場合には[Disabled]に設定してください。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Onboard Serial Port 1 [3F8H/IRQ4]

ボード上のシリアルコネクタのアドレスを設定します。シリアルポート1とシリアルポート2には、異なったアドレスが必要です。設定オプション：[3F8H/IRQ4] [2F8H/IRQ3] [3E8H/IRQ4] [2E8H/IRQ10] [Disabled]

Onboard Serial Port 2 [2F8H/IRQ3]

ボード上のシリアルコネクタのアドレスを設定します。シリアルポート1とシリアルポート2には、異なったアドレスが必要です。設定オプション：[3F8H/IRQ4] [2F8H/IRQ3] [3E8H/IRQ4] [2E8H/IRQ10] [Disabled]

UART2 Use Infrared [Disabled]

[Enabled(有効)]に設定すると、ボード上の標準赤外線機能を起動し、第2シリアルUARTがマザーボード上の赤外線モジュールコネクタをサポートするように設定します。第2シリアルポートをボード上のCOM2コネクタに接続している場合には、赤外線機能を有効にしても機能しません。初期設定は[Disabled(無効)]で、第2シリアルポートUARTはCOM2コネクタに接続します。**3.8 外部コネクタのIrDA準拠赤外線コネクタ**を参照してください。設定オプション：[Disable] [Enabled]

4. BIOSセットアップ

Onboard Parallel Port [378H/IRQ7]

ボード上のパラレルポートコネクタのアドレスを設定します。パラレルポート付きI/Oカードを使用する場合には、アドレスがコンフリクトしないように注意してください。PCは、コンフリクトがない限り3つまでのパラレルポートを使用することができます。設定オプション：[Disabled] [3BCH/IRQ7] [378H/IRQ7] [278H/IRQ5]

Parallel Port Mode [ECP+EPP]

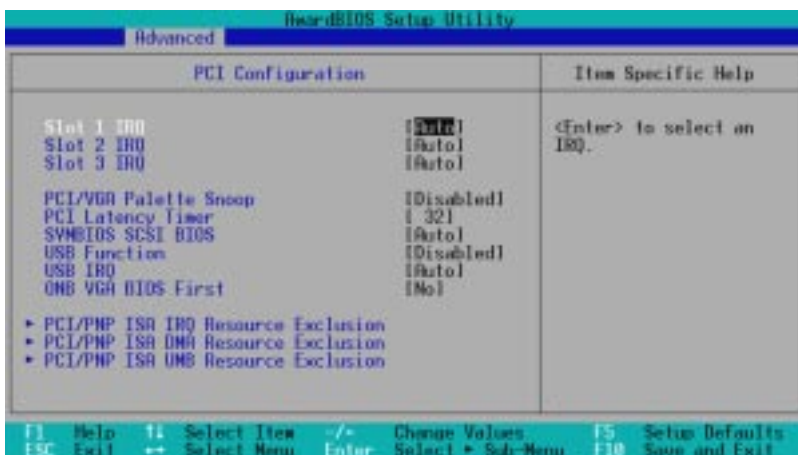
ポートは、現存するパラレルポートとソフトウェア・ハードウェア共に互換性を維持しています。ECPが不要なら通常のプリンターポートとしても使用することができます。ECPモードは、自動高速バーストバンド幅チャンネルでDMAをサポートします。ECPはホストと機器間の双方向通信を実現しています。ここではパラレルポートの動作モードを設定します。[Normal]設定は、通常速度の一方通信です。[EPP]は最高速度で双方向パラレル通信します。[ECP]では双方向通信で、一方通信速度より高速な通信ができます。[ECP+EPP]では、通常速度の2方向モード通信です。設定オプション：[Normal] [EPP] [ECP] [ECP+EPP]

ECP DMA Select [3]

選択されたECPモードのパラレルポートDMAチャンネルを構成できます。先の**Parallel Port Mode**で、[ECP]/[ECP+EPP] を選択した場合のみ、ここを指定することができます。設定オプション：[1] [3] [Disabled]

4. BIOSセットアップ

4.4.3 PCI Configuration



Slot 1 IRQ, Slot 2 IRQ, Slot 3 IRQ [Auto]

各PCIスロットは動作するのに固有のIRQを必要とします。他の機器で使用しているIRQを指定しないでください。設定オプション：[Auto] [NA] [3] [4] [5] [7] [9] [10] [11] [12] [14] [15]

PCI/VGA Palette Snoop [Disabled]

標準VGAではないグラフィックスカードやMPEGビデオカードを使用すると、画面表示が不正になることがあります。[Enabled]でこの問題が修正されます。それ以外は、初期設定[Disabled]を変更しないでください。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

PCI Latency Timer [32]

性能・安定性のバランス上、初期設定を変更しないでください。

Symbios SCSI BIOS [Auto]

[Auto]では、Symbios SCSIカードをBIOSが自動検出します。Symbios SCSIカードが検出された場合には、マザーボードSymbios BIOSが有効になります。検出されなかったときは、ボード上のSymbios SCSI BIOSは無効です。

[Disabled]はマザーボードのSymbios SCSI BIOSを使用禁止にし、外部Symbios SCSIカードのBIOSを使用できるようにします。Symbios SCSIカードがBIOSを搭載しないときは、Symbios SCSIカードは無効です。設定オプション：[Auto] [Disabled]

4. BIOSセットアップ

USB Function [Disabled]

USBポートの有効無効を指定します。設定オプション：[Disabled]
[Enabled]

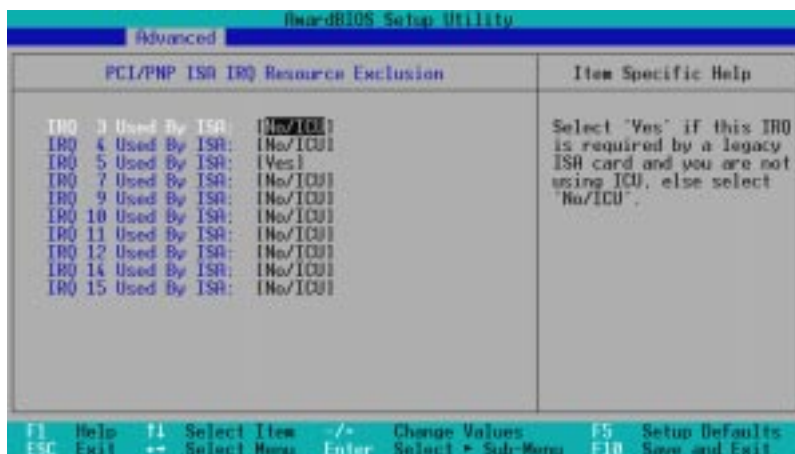
USB IRQ [Auto]

[Auto]ではUSB用のIRQ#を予約します。USB機器を使用しないなら、この項目を[NA]に設定して、拡張カードにIRQ#を使用することができません。他の機器で使用しているIRQを指定しないでください。設定オプション：[Auto] [NA] [3] [4] [5] [7] [9] [10] [11] [12] [14] [15]

ONB VGA BIOS First [No]

[Yes]に設定すると、他のVGAコントローラーよりボード上のVGA BIOSが優先します。設定オプション：[No] [Yes]

PCI/PNP ISA IRQ Resource Exclusion

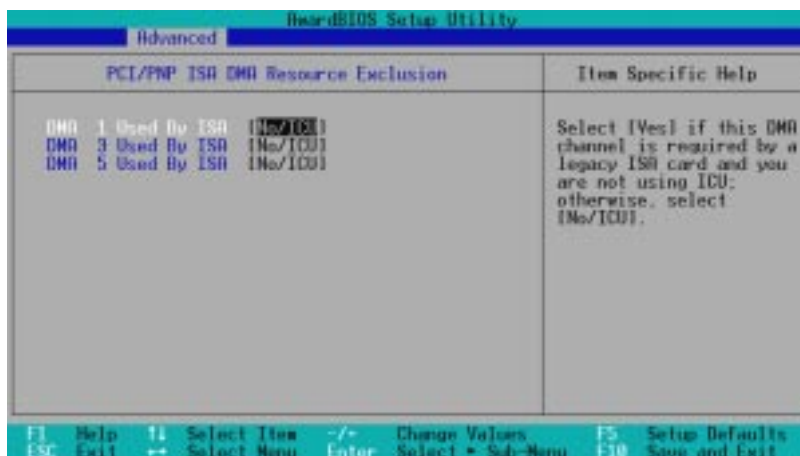


IRQ XX Used By ISA: [No/ICU] / IRQ 5 Used By ISA: [Yes]

各項目で表示されたIRQが、レガシー（非PnP）ISAカードで使われているかどうかを示します。[No/ICU]は、表示されたIRQが使用されていないか、ISAにIRQを割り当てるためにISA Configuration Utility (ICU)を使用しているかを示しています。使用するレガシーISAカードが固有のIRQを必要とし、ICUを使用しないなら、使用するIRQを[Yes]に設定してください。たとえば、IRQ 10を要求するレガシーISAカードを使用する場合は、**IRQ10 Used By ISA**を[Yes]に設定してください。設定オプション：[No/ICU] [Yes]

4. BIOSセットアップ

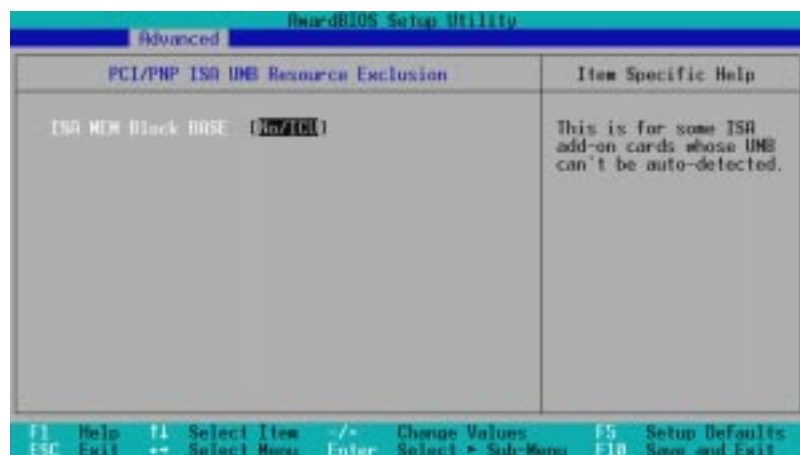
PCI/PNP ISA DMA Resource Exclusion



DMA x Used By ISA: [No/ICU]

各項目で表示されたDMAチャンネルがレガシー(非PnP)ISAカードで使われているかどうかを示します。初期設定では、ISAカードが各DMAチャンネルを使用しないか、ISA Configuration Utility(ICU)でISAのDMAを指定することになります。使用するレガシーISAカードが固有のDMAを必要とし、ICUを使用しないなら、使用するDMAを[Yes]に設定してください。設定オプション : [No/ICU] [Yes]

PCI/PNP ISA UMB Resource Exclusion

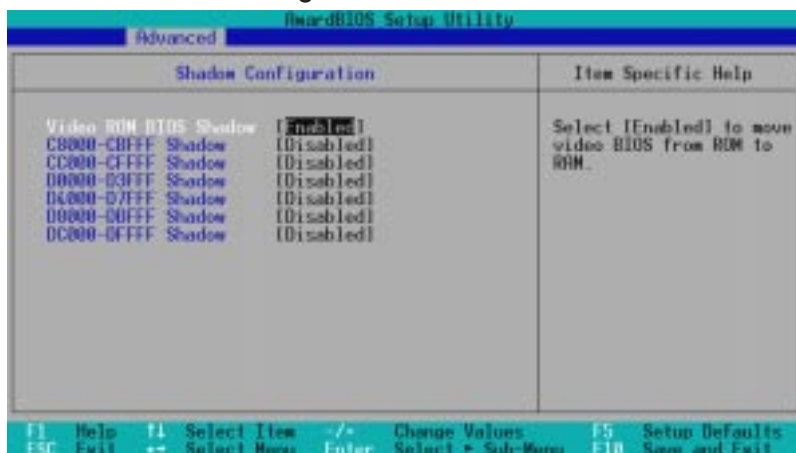


4. BIOSセットアップ

ISA MEM Block BASE [No/ICU]

C800とDC00の範囲内で、メモリーセグメントを使うレガシーISAカードのベースアドレスとブロックサイズを設定することができます。アドレス範囲の指定が必要なISAカードで、指定にICUを使わない場合には、6つの有効オプションからベースアドレスを選択してください。**ISA MEM Block SIZE**項目がブロックサイズを指定するために表示されます。このアドレス範囲を使用するレガシーISAカードを複数取り付ける場合には、8K、16K、32K、64Kにブロックサイズを増やすことができます。ICUを使用する場合には、**ISA MEM Block BASE**は初期設定[No/ICU]にしてください。設定オプション：[No/ICU] [C800] [CC00] [D000] [D400] [D800] [DC00]

4.4.4 Shadow Configuration



Video ROM BIOS Shadow: [Enabled]

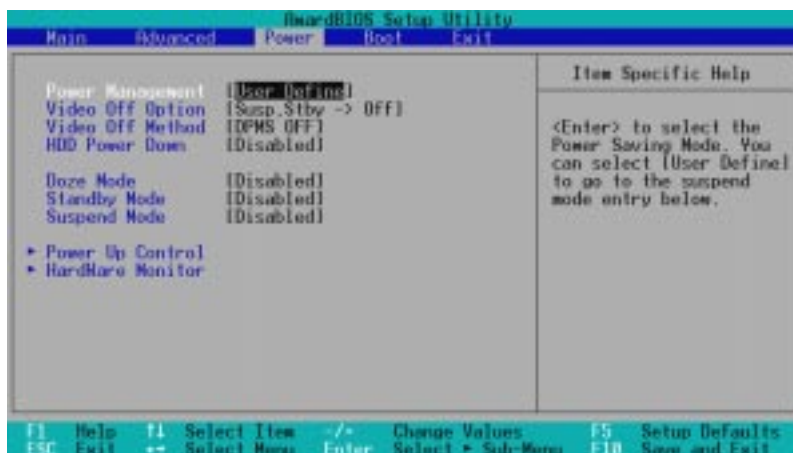
[Enabled]設定で、ビデオBIOSの位置をROMからRAMへ変更することができます。ROMよりRAMはアクセスが速いので、RAMに再配置すればシステム性能が向上します。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

C8000-CBFFF to DC000-DFFFF: [Disabled]

他の拡張カードROMをシャドウするための設定です。ROMを搭載した他の拡張カードをインストールする場合には、そのROMがシャドウに使用するアドレスを知っている必要があります。ROMをシャドウすると、640K ~ 1024Kの間で使用される分、使用可能メモリーが減ります。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

4. BIOSセットアップ

4.5 Powerメニュー



Power Management: [User Define]

自動節電機能を使用する場合には、このオプションを有効にする必要があります。[Disabled(無効)]に設定すると、電源管理機能は他の項目設定に関係なく無効になります。[User Define]設定で、Powerメニュー中の指定が有効になります。[Max Saving]設定で、最大量節電されます。Doze、Standby、Suspend Mode項目は、最大節電できる規定値に設定されます。

パワーマネジメントモードのマスターコントロールとして機能します。[Max Saving]は、短時間システムを使用しない場合パワーセービングモードに入ります。[Min Saving]は [Max Saving] とほぼ同じものですが、長時間システムを使用しない場合に使用します。[Disabled] はパワーセービング機能を利用しません。[User Define]は、プリファレンスに従ってパワーセービング機能を利用することができます。設定オプション : [User Define] [Disabled] [Min Saving] [Max Saving]

重要 : Advanced Power Management (APM)は、BIOSパワーマネジメントによってサスペンドモードになったとき、システムタイムアップデートを保存したままインストールしなければなりません。DOS環境では、CONFIG.SYSにDEVICE=C:\DOS\APM.EXEを追記する必要があります。Windows 3.xとWindows 95では、APM機能をWindowsにインストールする必要があります。Windows 98以後では、APMが自動的にインストールされます。コントロールパネルに「パワーマネジメント」というバッテリーと電源コードのアイコンがあります。パワーマネジメント項目の「詳細設定」を選択し、設定してください。

4. BIOSセットアップ

Video Off Option [Susp,Stby -> Off]

モニターパワーマネジメントとして、ビデオ オフ機能をいつ動作させるかを決定します。設定オプション : [Always On] [Suspend-> Off] [Susp,Stby-> Off] [All Modes-> Off]

Video Off Method [DPMS OFF]

ビデオ オフ機能を利用します。DPMS(Display Power Management System)機能は、BIOSがビデオディスプレイカードをコントロールできるようにします。[Blank Screen] は画面表示を消すだけです(パワーマネジメント機能の無いモニターや、グリーン機能を利用できない場合に利用します。システムをセットアップする場合、スクリーンセーバーはブランクスクリーンを選択してください)。[V/H SYNC+Blank] は画面表示を消し、スキャンをOFFにします。設定オプション : [Blank Screen] [V/H SYNC+Blank] [DPMS Standby] [DPMS Suspend] [DPMS OFF] [DPMS Reduce ON]

HDD Power Down [Disabled]

ここでユーザーの指定した不活動時間が経過すると、IDEハードディスクドライブがシャットダウンします。本機能はSCSIハードドライブとは無関係です。設定オプション : [Disabled] [1 Min] [2 Min] [3 Min]...[15 Min]

Doze Mode [Disabled]

システムがdoze(sleep)モードに入るまでの時間を指定します。設定オプション : [Disabled] [20 Sec] [1 Min] [5 Min] [10 Min] [15 Min]...[40 Min]

Standby Mode [Disabled]

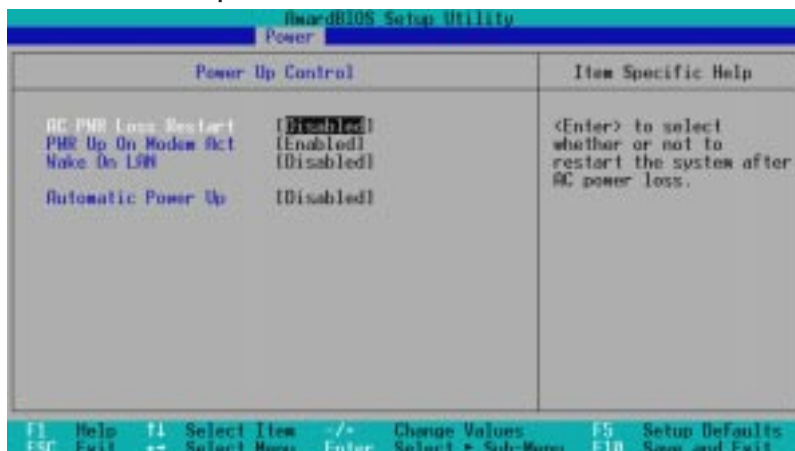
システムがstandby modeに入るまでの時間を設定します。設定オプション : [Disabled] [20 Sec] [1 Min] [5 Min] [10 Min] [15 Min]...[40 Min]

Suspend Mode [Disabled]

システムがsuspend modeに入るまでの時間を設定します。設定オプション : [Disabled] [20 Sec] [1 Min] [5 Min] [10 Min] [15 Min]...[40 Min]

4. BIOSセットアップ

4.5.1 Power Up Control



AC PWR Loss Restart: [Disabled]

ここでは、電源が切られた後、復帰した際にシステムを起動するかどうかをしています。[Disabled]では、電力が復帰してもシステムは起動しません。[Enabled]では、電力復帰後にシステムが起動します。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

PWR Up On Modem Act: [Enabled]

[Enabled有効]・[Disabled無効]の項目を選択できます。ATX電源装置はオンの状態で、コンピューターがソフトオフ状態の時、モデムからの呼び出しでシステムを起動するかどうかを指定します。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

注：コンピューターとアプリケーションが完全に起動するまでは、データの送受信はできません。したがって、一回目では接続できないのです。コンピューターが電源オフの時、外部モデムの電源をオフにし再びオンにするとコンピューターの電源がオンになります。

Wake On LAN: [Enabled]

Wake-On-LANは、ネットワークから起動フレーム/信号を受信することで、本システムを起動する機能です。この機能により、ネットワーク管理者はリモート操作でオフピーク時にソフトウェアのアップデートやメンテナンスをすることができます。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

重要：この機能を利用するには、Wake-On-LAN対応ネットワークインターフェースと+5Vスタンバイ電源に少なくとも720mAを供給できる電源装置が必要です。

Automatic Power Up: [Disabled]

自動システム電源オン機能を設定します。設定オプション：[Disabled] [Enabled]

4. BIOSセットアップ

4.5.2 Hardware Monitor



CPU Temperature [xxxC/xxxF]

ボード上のハードウェアモニターは、MB(マザーボード)とCPUの温度を検出することができます。必要な場合にのみ[Ignore(無視)]にセットしてください。

CPU Fan, Chassis Fan Speed [xxxxRPM]

ボード上のハードウェアモニターは、CPUファン、筐体ファンのスピード(回転/分: RPM)を検出することができます。ファンの存在は自動的に検出されます。必要な場合にのみ[Ignore(無視)]にセットしてください。

VCORE Voltage/+3.3V Voltage/+5V Voltage/+12V Voltage [xx.xV]

ボード上のハードウェアモニターは、ボード上の電圧レギュレーターの電圧出力を検出することができます。必要な場合にのみ[Ignore(無視)]にセットしてください。

注：指定範囲を超えたら、次のようなエラーメッセージが表示されます：「Hardware Monitor found an error. Enter Power setup menu for details(ハードウェアモニターはエラーを発見しました。Powerセットアップメニューで詳細を確認してください)」。そして、「Press F1 to continue, DEL to enter SETUP(F1を押して進み、DELキーを押してSETUPに入ってください)」と処理を求められます。

4. BIOSセットアップ

4.6 Bootメニュー



Boot Sequence

Bootメニューで、3つの可能な起動機器を上下矢印キーを使用して選択することができます。<+>/<Space>キーでその機器を昇格させることができ、<-> キーで降格することができます。機器の昇格が降格により、システム起動の時の優先順位が変わります。設定オプション：[Removable Devices] [IDE Hard Drive] [SCSI Boot Device] [Other Boot Device]

Removable Device Select [Legacy Floppy]

設定オプション：[Legacy Floppy] [LS120] [ZIP-100] [ATAPI MO]

IDE Hard Drive Select

起動順序も含め、IDEハードディスクに関する設定をします。[Enter]を押すと、接続されたIDEハードディスクドライブのIDを表示します。

Other Boot Device Select [ATAPI CD-ROM Drive]

設定オプション：[ATAPI CD-ROM Drive] [Network]

Plug & Play O/S [No]

PCIバス構成に、BIOSではなく、プラグ&プレイ(PnP)OSを使うように指定できます。[Yes]を選択すると、割り込みはOSにより再割り当てされます。非PnP OSがインストールされている場合や、OSによる割り込み再設定をたくない場合には、初期設定の[No]を選択してください。設定オプション：[No] [Yes]

4. BIOSセットアップ

Boot Virus Detection: [Enabled]

設定オプション : [Disabled] [Enabled]

Quick Power On Self Test: [Enabled]

設定オプション : [Disabled] [Enabled]

Boot Up Floppy Seek: [Enabled]

設定オプション : [Disabled] [Enabled]

Boot Up NumLock Status: [On]

設定オプション : [Off] [On]

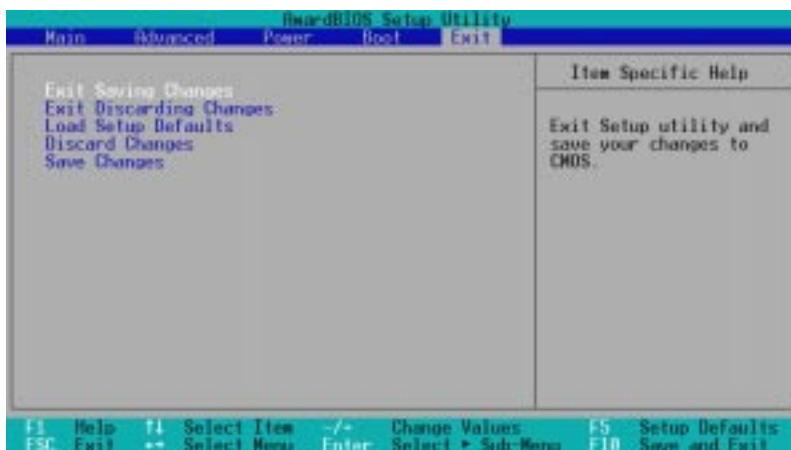
Full Screen Logo: [Enabled]

設定オプション : [Disabled] [Enabled]

4. BIOSセットアップ

4.7 Exitメニュー

セットアッププログラムで行った設定・変更は、保存してから終了しないと利用できません。メニューバーからExitを選択すると次のメニューが表示されます：



注：<Esc>キーを押すとこのメニューを終了します。メニューを選択するか、このメニューの終了を選択してください。

Exit Saving Changes

設定を終了したら、Exitメニューからこのオプションを選択し、設定をCMOSRAMに保存してセットアップを終了します。PCの電源がオフでも、CMOSRAMはボード上のバックアップバッテリーにより内容を保持しています。本オプションを選択すると確認を求められます。変更を保存し、終了するため [Yes] を選択してください。

注：設定変更を保存せずにセットアッププログラムを終了しようとすると、変更を保存するかどうかの確認メッセージが表示されます。<Enter>キーを押すと保存終了します。

Exit Discarding Changes

設定変更を保存しない場合にのみ、このオプションを選択してください。システム日付、時間とパスワード以外の項目を変更したときは、終了前に確認を求められます。

4. BIOSセットアップ

Load Setup Defaults

このオプションを選択すると、各メニューに初期設定値が読み込まれます。このオプションを選択したり<F5>が押されたとき、確認を求められます。初期設定を読み込むには[Yes]を選択してください。**Exit Saving Changes**を選択し保存終了することも、保存前に設定変更することもできます。

Discard Changes

このオプションを選択すると、今回の変更を破棄し、以前に設定した値を復元することができます。選択すると、すべての設定がアップデートされ、確認を求められます。[Yes]で、今回の変更を破棄し、以前の値を読み込みます。

Save Changes

このオプションを選択すると、設定を保存しますが、セットアッププログラムは終了しません。他のメニューへ戻り設定を続けることができます。選択すると、設定を保存するかどうかの確認を求められます。[Yes]で不揮発性RAMに設定を保存します。

5. ソフトウェアセットアップ

5.1 Operating Systems

ハードウェアについて最高の互換性を達成するため、最新のOS、アップデートを使用してください。Windows 95では、OSR 2.0およびそれ以降が必要です。Windows NT 4.0では、Service Pack 3.0およびそれ以降が必要です。

5.1.1 Windows 98で最初に起動したとき

マザーボードをインストールし、Windowsを起動したら、Windows 98はオンボードオーディオ・ビデオチップを自動検出し、ドライバーをインストールしようとします。そこで、再起動を求められたらいいえを選択し、続いてここで説明する通常のセットアップ手順を続けてください。

重要：Windowsがボード上のVGAチップと互換性のない古いディスプレイドライバーをロードする可能性があるため、最初の再起動を求められたときはいいえを選択してください。ASUS Support CDやASUSベンダー、ASUS webから入手したドライバーを使用してください。

注：ここでの画面表示は参照のためで、実際のものとは異なることがあります。

5. ソフトウェアセットアップ

5.2 MES-NサポートCD

注：サポートCDの内容は予告なく変更されることがあります。

サポートCDを使うには、CD-ROMドライブにセットしてください。サポートCDインストールメニューが表示されます。メニューが表示されない場合には、ダブルクリックするか、**D：¥ASSETUP.EXE**を実行してください(CD-ROMドライブをドライブD:とします)。

5.2.1 インストールメニュー



- **Install ASUS PC Probe Vx.xx** : コンピューターのファン、温度、電圧を監視するASUS PC Probe utilityをインストールします。
 - **Install Bus Master IDE Driver** : SiS5595 Bus Master IDEドライバーをインストールします。詳細を表示するREADME.TXTを表示します。
 - **Install VGA Driver** : 統合VGAコントローラー用VGAドライバー・ユーティリティをインストールします。
 - **Install Audio Driver** (オプション) : 組み込みPCIオーディオチップセット用ドライバー・ユーティリティをインストールします。
 - **Install YAMAHA XG-STUDIO** (オプション) : MIDIファイルを再生・ミキシングするYAMAHA XGstudio Player・Mixerをインストールします。オンラインヘルプを表示します。
 - **Install YAMAHA YSTATION32** (オプション) : CD、MIDI、WAVE再生/録音(WAVE機器が必要です)するYAMAHA Ystation32オーディオユーティリティをインストールします。
 - **Install Network Driver** : オンボードIntel® PCIネットワークアダプター用ドライバーをインストールします。詳細はオンラインヘルプを参照してください。
 - **Install PCcillin 98 Vx.xx** : PC-cillinウイルスプロテクトソフトウェアをインストールします。詳細はオンラインヘルプを見てください。
 - **Install ADOBE AcroBat Reader Vx.x** : PDFフォーマット文書を開覧する、Adobe Acrobat Readerソフトウェアをインストールします。本マニュアルの最新バージョン・他国語バージョンは、PDFフォーマットでASUS Webから入手できます。
 - **Show Motherboard Information** : 製品名、BIOSバージョン、CPU情報など、マザーボードの情報を表示します。
- (次の項目を見るには、メインメニューの右下にある右向き矢印をクリックしてください)
- **Browse Support CD** : CDの内容を表示します。
 - **ReadMe** : 付属サポートソフトウェアのファイルリストを表示します。
 - **Exit** : CDインストールメニューを終了します。

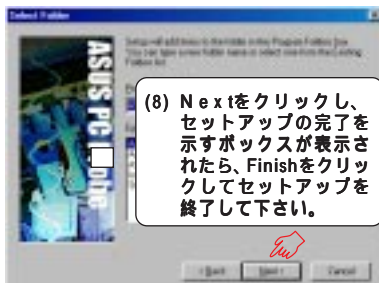
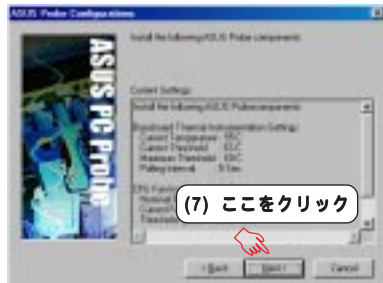
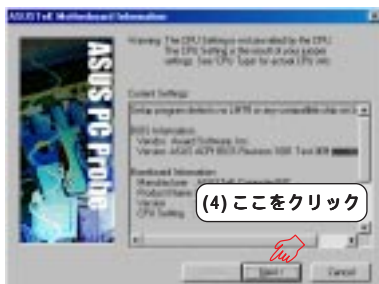
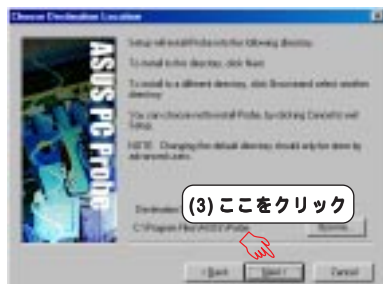
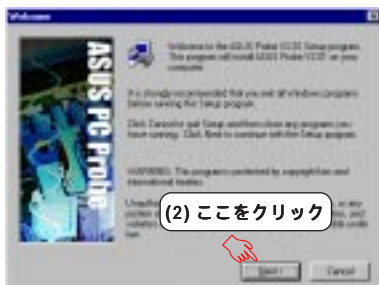
CD内容補足 : Flash BIOSライターが**AFLASH**フォルダーに、WindowsNT用IDE Bus Masterドライバーが**BUSMASTR**フォルダーに、Windows 95 OSR 2.1上でUSB機器を使用するために必要なパッチファイルが**USBPATCH**フォルダーにあります。

5. ソフトウェアセットアップ

5.3 Install ASUS PC Probe Vx.xx

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。

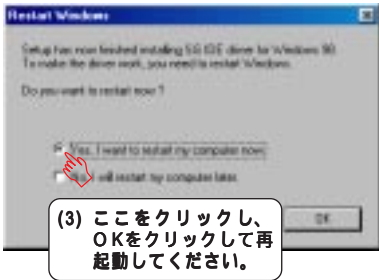
注：ASUS PC Probeは、他のハードウェアモニターユーティリティがインストールされている場合には起動しません。プログラムをアンインストールしたいときは、**5.12 プログラムのアンインストール**を参照してください。



5. ソフトウェアセットアップ

5.4 Install Bus Master IDE Driver

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。

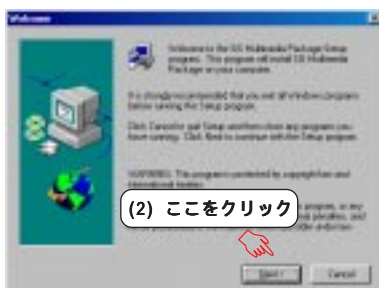


注：さらに他のドライバーやユーティリティをインストールしたい場合には、後にシステムを再起動するように指定して作業を続けてください。しかし、ドライバーやソフトウェアが有効になっていないと使用できない機器については、すぐに使用することはできません。これらのドライバーなどはWindowsを再起動して初めて有効になります。

5. ソフトウェアセットアップ

5.5 Install VGA Driver

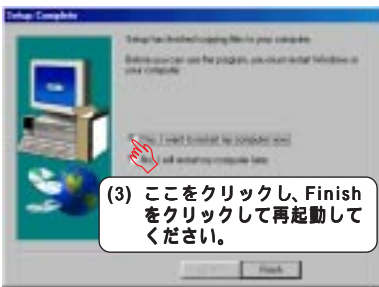
CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



5. ソフトウェアセットアップ

5.6 Install Audio Driver (オンボードオーディオモデルのみ)

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



Windows95の場合

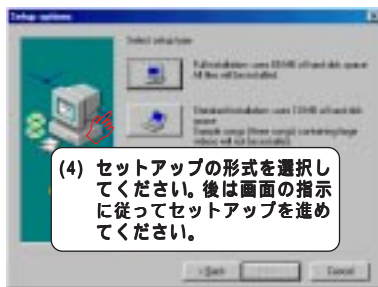
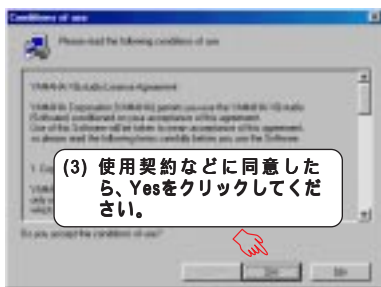
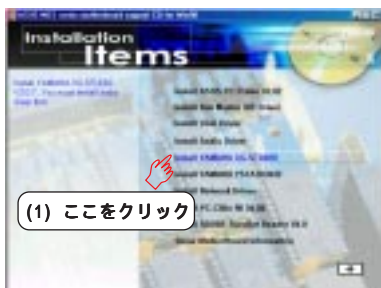
1. 新しいハードウェアを検出し、ドライバーのインストール画面が表示されたら、製造者の提供するドライバーを使用するように指定し、ASUS Support CDをCD-ROMドライブにセットしてください。
2. **OK**をクリックします。
3. **Browse**をクリックします。
4. **D:¥Audio¥Yamaha¥Win9X**フォルダーを指定し、**OK**をクリックします (CD-ROMドライブをDドライブとした場合)。
5. もう一度**OK**をクリックするとファイルがコピーされます。
6. **Yes**をクリックし、コンピューターを再起動してください。

5. ソフトウェアセットアップ

5.7 Install YAMAHA XG-STUDIO

(オンボードオーディオモデルのみ)

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。

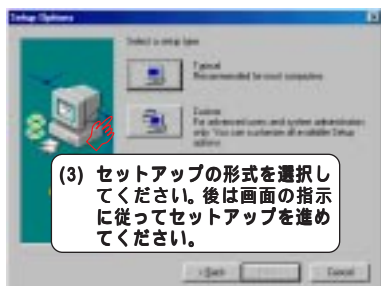
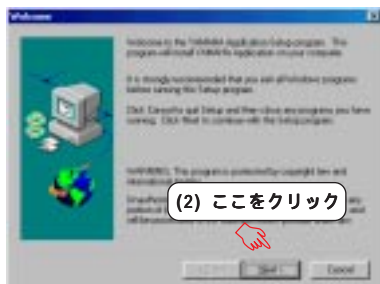


5. ソフトウェアセットアップ

5.8 Install YAMAHA YSTATION32

(オンボードオーディオモデルのみ)

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



5. ソフトウェアセットアップ

5.9 Install Network Driver

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



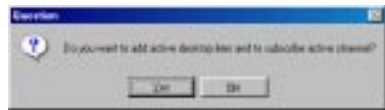
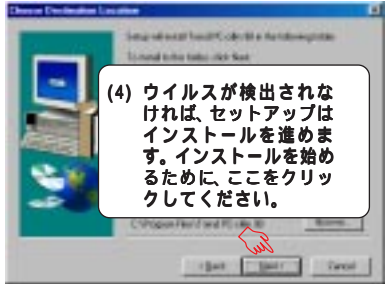
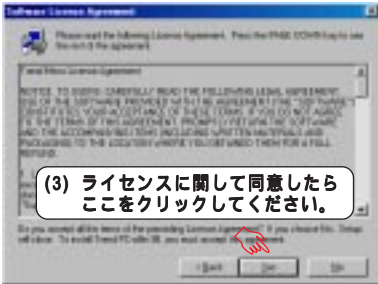
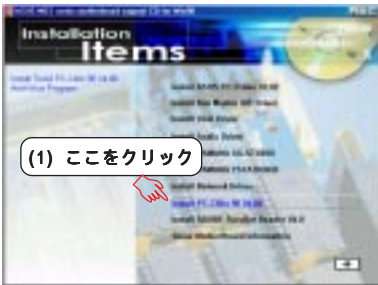
注：システムによっては、自動インストールできない場合があります。その場合には、LANドライバーのマニュアルインストールを行ってください。マニュアルセットアップの方法は、SETUP.TXT(サポートCDのLANフォルダーにあります)をダブルクリックして参照してください。



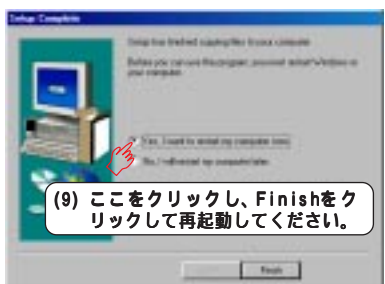
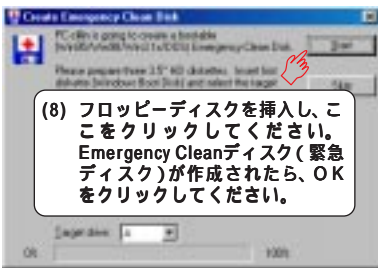
5. ソフトウェアセットアップ

5.10 Install PC-Cillin 98 Vx.xx

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



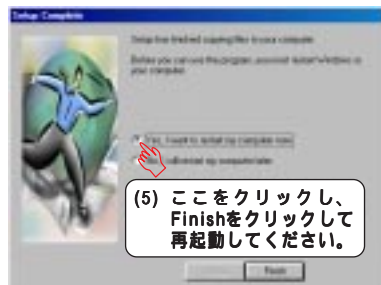
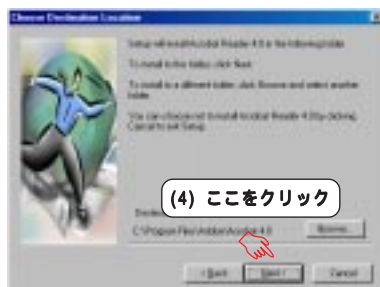
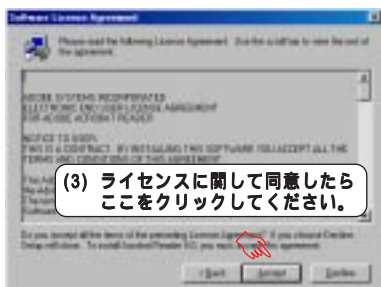
(6) & (7) 該当するボタンをクリックし、必要な機能を選択してください。



5. ソフトウェアセットアップ

5.11 Install ADOBE Acrobat Reader Vx.x

CD-ROMドライブにサポートCDをセットするか、マイコンピュータのCDドライブアイコンをダブルクリックしてください。



5. ソフトウェアセットアップ

5.12 プログラムのアンインストール

「プログラムの追加と削除」はWindowsの機能です。プログラム自体にアンインストールプログラムがない場合には、このWindowsの機能を利用してください。



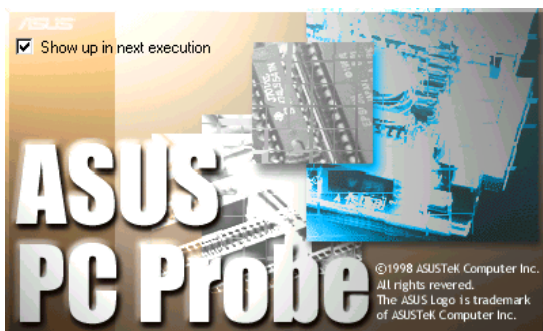
6. ソフトウェアリファレンス

6.1 ASUS PC Probe


ASUS PC Probeは、ファン回転、電圧、温度などのシステム部品を監視する便利なユーティリティです。ハードディスク容量、メモリー使用量、CPUタイプ/スピードや内部/外部周波数などの有益な情報を、DMIを通してチェックするユーティリティも搭載しています。

6.1.1 ASUS PC Probe の起動

ASUS PC Probeが起動すると、起動画面が表示され、起動時にこの画面を表示するかしないかを選択することができます。この起動画面を表示したくない場合には、**Show up in next execution** チェックボックスのチェックを外してください。



ASUS PC Probeを実行するには、「スタート」 - 「プログラム」 - 「ASUS Utility」 - 「Probe Vx.xx」を選択してください。

ASUS PC Probe実行中は、PC Probeアイコン  がタスクバーのシステムトレイに表示されます。そのアイコンをクリックすると、PCの状態を参照することができます。



6. ソフトウェアリファレンス

Settings

閾値レベル・ポーリング間隔の設定、PC温度・ファン回転と電圧管理のリフレッシュタイムを設定できます。



History

日付、時間などにより、PC部品の監視を記録できます。



Information

Hard Drives

PCのハードディスクドライブの空き容量やファイルアロケーションテーブル、ファイルシステムを表示します。



Memory

PCのメモリーロード、メモリー使用、ページングなどを表示します。



6. ソフトウェアリファレンス

6.1.3 ASUS PC Probe タスクバーアイコン

PC Probeアイコンを右クリックすると、ASUS PC Probeを開く、終了する、監視を休止する、再開するなどを選択できるメニューが表示されます。



ASUS PC Probeがエラーを検出すると、ASUS PC Probeアイコンが赤色に変わり、PCスピーカーはピープ音を発し、ASUS PC Probeモニターが表示されます。



(ここは空白ページです)

6. ソフトウェアリファレンス

6.2.3 Monitor

使用しているモニターを表示します。新しいモニターにソフトウェアをインストールするには、変更をクリックしてください。



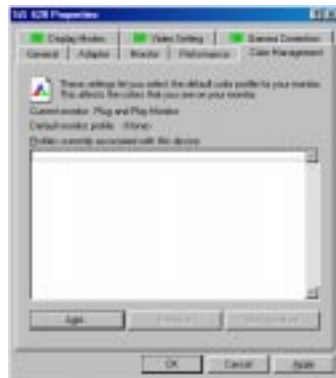
6.2.4 Performance

グラフィックスハードウェアの加速度を指定します。最大加速は、多くの場合推薦されます。グラフィックス高速化が原因であると思われる問題が発生したら、問題のない最高設定に変更してください。



6.2.5 Color Management

モニターに関連したすべての色プロファイルを記載します。アクティブプロファイルにしたいプロファイルをクリックしてください。そうでない場合には、初期設定値プロファイルがアクティブプロファイルです。



6. ソフトウェアリファレンス

6.2.6 Display Modes

画面サイズを調整できます。この機能で、リフレッシュレートや色深度、フォントサイズを調整することができます。

Colors

色深度指定により、指定できる最大解像度やリフレッシュレートが異なります。

Desktop area

スライダーを使い解像度を調整してください。

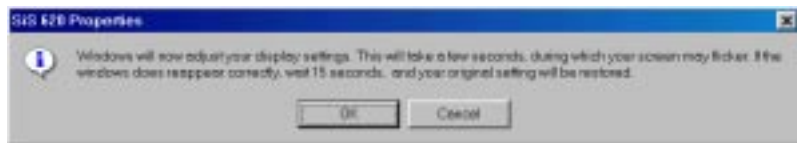
Font size

CustomをクリックするとCustom Font Sizeダイアログボックスが表示され、好みのフォントサイズを使用することができます。

Refresh rate

フリッカーをなくすため72Hz以上を指定してください。

調整が終わったらOKをクリックしてください。次のような画面が表示されます。



12秒以内に指定しないと、元の設定に戻ります。<ESC> を押すと設定変更を取り消すことができます。注：設定によっては、システムを再起動しなくては設定変更が反映されない場合があります。

6.2.7 Video Setting

明るさやコントラストを調整することができます。この機能は16ビット色(high color, 65K色)・32ビット色(true colorで8ビットアルファチャネル用追加、16.7M色)でのみ使用できます。



6. ソフトウェアリファレンス

6.2.8 Gamma Correction

画質を好みにより調整することができます。Gamma correctionは、16ビット色・24ビット色（true color、16.7M色）モードでのみ使用することができます。16ビット色・8ビット色（standard color、256色）モード下でのgamma correction機能はサポートしていません。

TINT

画面の色合いを設定することができます。

Change Bitmap

プレビュー画像を変更することができます。

Setting Gamma

モニター・ディスプレイの色マッピングを設定することができます。**注**：スライダーを使って各チャンネルを調整することができます。



6. ソフトウェアリファレンス

6.3 YAMAHA XGstudio Playerの使用

YAMAHA XGstudioを起動するには、「スタート」-「プログラム」-「YAMAHA XGstudio」-「XGstudio Player」を選択します。

6.3.1 YAMAHA XGstudio Player コントロールパネル



プレーヤーを終了します。注：<Alt>+<F4>キーを使ってもプレーヤーを閉じることができます。



プレーヤーを最小化します。




Set Play Listダイアログを表示します。自動再生リストを作成することができます。注：Set Play Listダイアログは <Ctrl>+<O>キーでも表示することができます。



Play Listで選択されたMIDOファイルを読み込み、再生します。リスト内のすべての曲が再生されたら自動的に再生は終了し、リスト内の最初の曲が選択された状態になります。



曲の再生を一時停止します。もう一度このボタンをクリックするか  をクリックすると再生を続けます。



曲の再生を中止し、その曲の最初を再生できる状態に戻ります。



再生リストの、一番目の曲を再生曲に設定します。



現在再生している曲の、一つ前の曲を新しい再生曲に設定します。



現在再生している曲の、一つ後の曲を新しい再生曲に設定します。



再生リストの、最後の曲を新しい再生曲に設定します。



再生のテンポを速くします。



再生のテンポを遅くします。

注：新しい各曲でテンポを0にリセットします。



Set Sound Sourceダイアログボックスを表示します。



ヘルプを表示します。注：<F1>キーでもヘルプを表示することができます。



スライドを利用して音量を調整することができます。

6. ソフトウェアリファレンス

6.3.2 トラブルシューティング

インストールできない

- ・ ハードディスクやメモリーなど、ハードウェアの条件を満たしていますか？
- ・ MS-DOSやWindowsなど必要なソフトウェアを使っていますか？
- ・ ハードディスクに十分な空き容量がないとインストールできません。不要なファイルを消去し、ディスクの空き容量を増やしてください。

起動しない

- ・ ハードディスクやメモリーなど、ハードウェアの条件を満たしていますか？
- ・ MS-DOSやWindowsなど必要なソフトウェアを使っていますか？
- ・ 正しい手順に従ってインストールしましたか？

サウンドが出ない

- ・ MIDIドライバーを正しくインストールしましたか？
- ・ トーンジェネレーターを正しく設定しましたか？
- ・ XGstudio PlayerやXGstudio Mixerのパネルで音量を0に設定していませんか。
- ・ 外部トーンジェネレーターを使用しているときは、シリアル・MIDI・オーディオケーブルを正しく接続していますか。
- ・ トーンジェネレーター・再生システム・アプリケーションの音量設定は十分ですか？
- ・ 外部トーンジェネレーターをシリアルケーブル経由で使用しているとき、リアパネルの選択スイッチは正しいですか？(リアパネルのスイッチについては、お使いの外部トーンジェネレーターのマニュアルを参照してください。)
- ・ ソフトシンセサイザーを使用しているとき、コンピューターサウンド出力が正しく聞こえるよう設定していますか？

6.3.3 ドライバーについて

XGstudioを使用するには、ドライバーが正しく設定されていなくてはなりません。使用するトーンジェネレーターに応じ正しいドライバーを使用してください。

HOSTコネクターをコンピューターのシリアルポートに接続する外部MIDIトーンジェネレーターを使用するときは、YAMAHA CBX Driverをインストールしてください。

トーンジェネレーターについて	ドライバーの選択と設定
ソフトシンセサイザー S-YG20	YAMAHA SGMP Driver
ソフトシンセサイザー S-YG50	YAMAHA SXG50 Driver
外部YAMAHA トーンジェネレーター (MU80またはMU50など)	YAMAHA CBX Driver
他の外部トーンジェネレーター	トーンジェネレーター付属のマニュアルを参照してください。

6. ソフトウェアリファレンス

6.4 YAMAHA XGstudio Mixerの使用

YAMAHA XGstudioを起動するには、「スタート」-「プログラム」-「YAMAHA XGstudio」-「XGstudio Mixer」を選択します。

6.4.1 YAMAHA XGstudio Mixer コントロールパネル

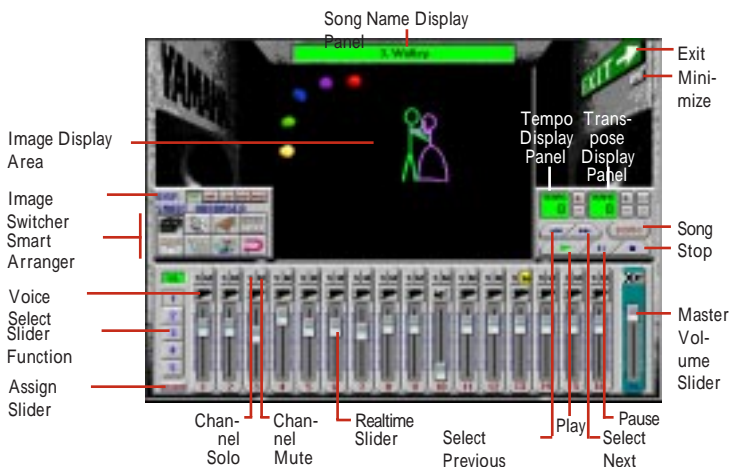


Image Switcher



(AVI file): Video image

再生されるMIDIファイルと同名のAVIファイルを表示します。選択しないと、現在のdefault.aviファイルが再生されます。



(BMP file): Still image

再生されるMIDIファイルと同名のBMPファイルを表示します。選択しないと、現在のdefault.bmpファイルが再生されます。



(LED velocity meter): Animation

各MIDIチャンネルの速度量を表示します。



(SCOPE velocity meter): Animation

ラジオチャートでグラフィカルに各MIDIチャンネルの速度量を表示します。




(drum and percussion): Animation

ドラムチャンネル(10ch)で使用される、ドラムやパーカッションに応じたアニメーションを表示します。

6. ソフトウェアリファレンス

Smart Arranger



Smart Arrangerで曲のモードを変更することができます。このボタンで7つのアンサンプルから選択することができます。  をクリックするとオリジナルのボイスセットに戻ります。



Piano



Orchestra



Mallet



Techno



Choir



Robot



Nature



Return

6.4.2 ビデオディスプレイ画面について

AVIファイル(動画データに含まれる)やBMPファイル(静止画データに含まれる)が同一フォルダーにあるMIDIファイルと同名の場合、動画や静止画は自動的に読み込まれ、MIDIファイルが再生中表示されます。

MIDIファイルと同名のAVIファイル(動画データに含まれる)やBMPファイル(静止画データに含まれる)がない場合、MIDIファイルが再生中はCSMIXER.EXTと同一フォルダーにあるDEFAULT.AVIかDEFAULT.BMPが表示されます。サンプルファイルが付属していますが、好みのAVIファイルやBMPファイルを使用することもできます。ファイルを選択するには、ディスプレイ画面をクリックし、BMP SetupまたはAVI Setupポップメニューを表示してください。

注 : 320 x 240ピクセルを超えるbmpファイルは使用できません。

6. ソフトウェアリファレンス

6.5 YSTATION32

YSTATION32は、CD、MIDI、WAVEプレーヤーから構成されています。WAVEコンポーネントはWAVフォーマットファイルを録音再生することができます。

Power Control、CD、MIDI、WAVE、Multi、Mixerの6つのコンポーネントがあります。すべてのコンポーネントを同時に開いておく必要はありません。

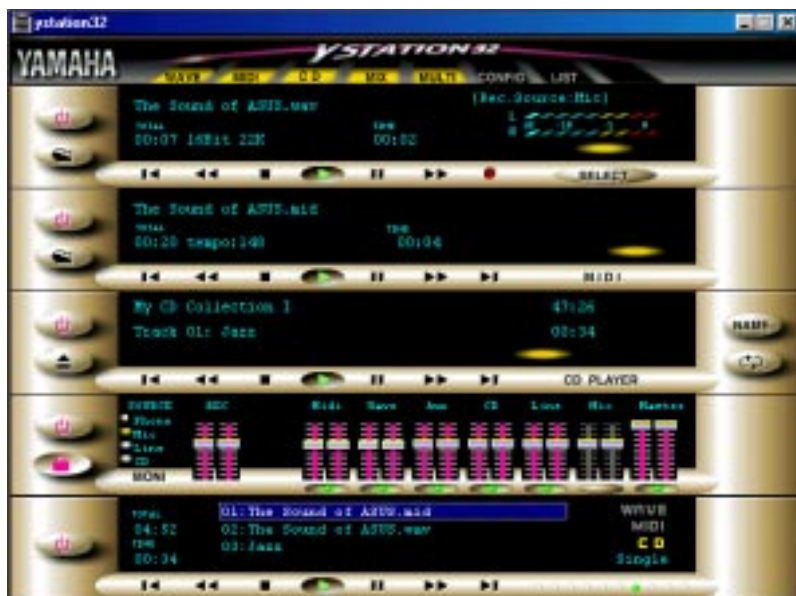
WAVE・MIDI(.WAV・.MID)ファイルをファイルマネージャからドラッグアンドドロップするだけで、再生することができます。

6.5.1 システムの条件

- 少なくともハードディスク上に1MBの空き容量があること
- Windows 95、Windows NT4.0
- オンボードオーディオ(オプション)

6.5.2 YAMAHA Ystation Player の使用

YAMAHA Ystation Playerを使用するには、「スタート」-「プログラム」-「YAMAHA DS-XG」-「YSTATION32」を選択します。



6. ソフトウェアリファレンス

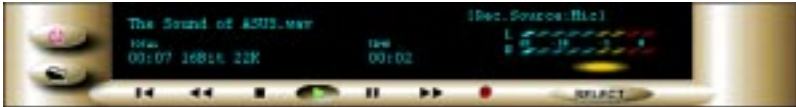
Power Control Component

このコンポーネントは他のコンポーネントを管理・起動します。



WAVE Component

このコンポーネントは、WAVEフォーマットファイルを録音再生します。録音ソースは、CD (AUX)、MIC、LINEです。画面には、ファイル名・フォーマット・時間が表示されます。



MIDI Component

このコンポーネントは、Standard MIDI Files (SMF) を再生します。画面には、ファイル名・テンポ・時間が表示されます。



CD Component

このコンポーネントはオーディオCDを再生します。画面には、トラック、タイトル、曲名、時間が表示されます。



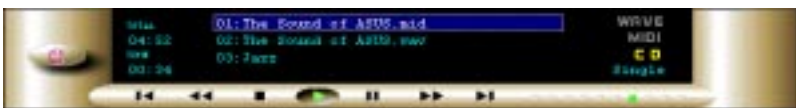
MIXER Component

サウンドカードの録音再生を制御します。



MULTI Component

このコンポーネントは、CD、MIDI、WAVE コンポーネントの同時再生を制御します。



6. ソフトウェアリファレンス












再生方法

CD、MIDI、WAVE、MULTI playerの共通操作。各コンポーネントは、以下の基本機能を搭載しています。:

Play, Stop, Pause, Fast Forward, Rewind.

CDplayerは、Next・Previous機能も搭載しています。

ボタンは、オーディオプレーヤーと共通の印が付けられています。オーディオプレーヤーを使用したことがない場合には、YSTATION32を一度操作してみてください。

-  中止
-  一時停止
-  再生
-  後方検索
-  前方検索
-  直前曲の最初へ戻る
-  次の曲の最初に進む
-  コンポーネントの表示/非表示
-  ファイルを開くダイアログの表示
-  CD-ROMドライブをOpen/closeします (CD playerのみ)
-  再生を繰り返します (CD playerのみ)

CD-ROMドライブがEject機能をサポートしていないとき、Ejectボタンをクリックしてもなにも生じません。

CDのタイトリング

CDコンポーネントのNameボタンをクリックすると、Name CD ダイアログが表示されます。CDタイトルとトラック名を入力することができます。CDタイトルは最高25文字までです。トラック名は最高25文字までですが、CDコンポーネントでは最初の22文字のみが表示されます。



ボタンをクリックしYSTATION32を使用してください。

6. ソフトウェアリファレンス

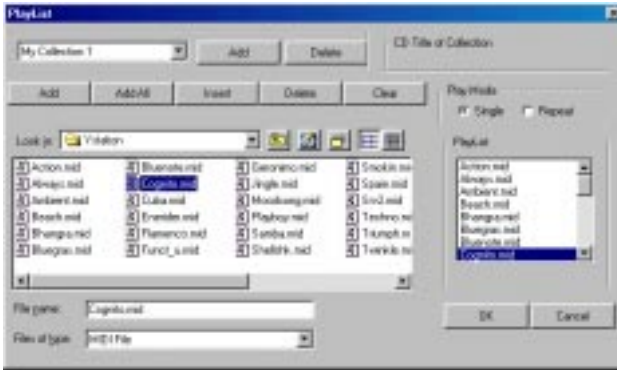
Playlist

PlaylistでCDトラック、MIDI曲、WAVEサウンドを好みにしたがって再生することができます。リスト最初の項目から再生が始まり、リストの最後まで再生します。Play Modeを**Repeat**に指定すると、リストに従って繰り返し再生されます。

Power Controlコンポーネントの**LIST**ボタンをクリックしてください。

Playlistダイアログでは、CD、MIDI、WAVE データーを好みにしたがってアレンジすることができます。

CDのタイトルを入力することができます。



Play Mode

Singleに設定すると、一度だけ再生されます。**Repeat**に設定すると、リスト内のデーターが繰り返し再生されます。

OKボタンをクリックすると、¥Windows¥Ystation.iniファイルに再生リストは保存されます。読み込まれているCDがリストと異なるときは、エラーメッセージが表示されます。CDの曲名が再生リストと異なるという意味です。この場合には、再生リストを編集してください。そうしないと、エラーメッセージが繰り返し表示されません。

6. ソフトウェアリファレンス

Configuration

CONFIGボタンをクリックするとPower Controlコンポーネントが表示されます。ConfigダイアログでYSTATION32の環境設定をすることができます。

Auto Play

Auto PlayがOFFの時、YSTATION32を実行すると、WAVE、MIDI、CD、MIXコンポーネントが開きます。Auto PlayがONの時、YSTATION32を実行すると再生リストに登録されたデータが再生されます。

PlayListダイアログのPlay ModeがRepeatで、Auto PlayがONの時、YSTATION32を実行すると、再生リストに登録されたデータが繰り返し再生されます。

Display mode

Auto PlayがONのとき、どのコンポーネントを表示するかを指定することができます。Selectを選択したら、Component Selectがチェックされたコンポーネントが表示されます。Now Playingを選択したら、現在再生中のコンポーネントのみが表示されます。

Component Select

Component Selectチェックボックスで、どのコンポーネントをAuto Playにするかを設定します。チェックされたコンポーネントがAuto Playで使用されます。これらの設定は、DisplayモードがSelectに設定されている場合にのみ有効です。

Recording Mode

New 新ファイルを作成します。
Overwrite 現在のファイルに上書きします。
Add 現在のファイルに追加します。

Sampling Rate

これらのボタンで、Waveファイル録音のサンプリングレートを設定することができます。

Type

これらのボタンで、Waveファイル録音のステレオ/モノラルを選択することができます。

Data Format

これらのボタンで、データフォーマット8ビット/16ビットを設定することができます。



6. ソフトウェアリファレンス

Property

Output

再生ボリュームコントロールは、チェックボックスがチェックされているものがミキサーコンポーネントに表示されます。7つまでのボリュームコントロールを選択できます。

Input

録音ボリュームコントロールは、チェックボックスがチェックされているものがミキサーコンポーネントに表示されます。4つまでのボリュームコントロールを選択することができます。



6.5.3 エラーメッセージ

以下のものは、YSTATION32のエラーメッセージです。

Can't open window

YSTATION32起動時にウィンドウを開けなかったときに表示されます。

Disc not loaded

CD ComponentのNAMEボタンをクリックした際、CDが読み込まれなかったときに表示されます。

The Wave data has changed. Save current changes?

変更を保存せずに終了しようとした場合に表示されます。

A Wave file with this name already exists. Overwrite?

すでに使用されているWaveファイル名で保存しようとしたときに表示されます。

Can't get timer

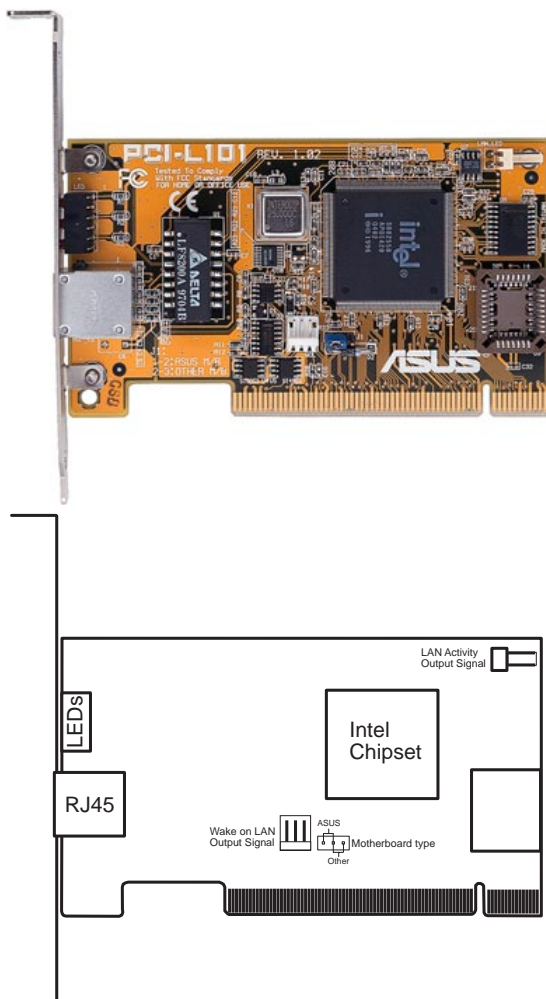
Timerリソースが不十分な状態での再生中に表示されます。

The CD loaded is different to that in the Playlist

Power ComponentのLISTボタンをクリックしたとき、読み込まれているCDが再生リストと異なっている場合に表示されます。

7. APPENDIX

7.1 ASUS PCI-L101ファストイーサネットカード



ASUS PCI-L101をASUSのマザーボードで使う場合は、ジャンパーの設定を初期設定のASUSに設定してください。他社のマザーボードで使う場合には、ジャンパーをOtherに設定してください。マザーボードのWake on LAN機能を使用する場合には、Wake on LAN(WOL)出力信号WOL_CONに接続してください。筐体のフロントパネルにあるLAN_LEDを、LAN状態表示信号(LAN_LED)に接続するとLANデータの転送状態を知ることができます。

7. APPENDIX

7.1.1 特徴

- Intel 82558 Ethernet LAN コントローラー搭載 (10BASE-T/100BASE-TX 完全対応)
- Wake-On-LAN リモートコントロール機能をサポート
- PCI ローカルバス Rev.2.1 準拠
- MAC & PHY (10/100Mbps) インターフェース
- IEEE 802.3 10BASE-T/IEEE 802.3u 100BASE-TX インターフェース
- シングルRJ45ポートで10BASE-T/100BASE-TX 機能サポート
- 32ビットバスマスター転送 / PCI Rev.2.1 サポート
- ACPI/APM 機能搭載
- PCIバスマスターインターフェース Rev.1.0、ACPI Rev.1.0、デバイスクラスパワーマネジメント Rev.1.0
- IEEE 802.3u 10Mbps/100Mbps ネットワークデータ転送レート自動設定
- ネットワーク状態監視 LED
- Plug & Play

7.1.2 ソフトウェアドライバサポート

- **NetWare ODI ドライバー** - Novell Netware 3.x、4.x、DOS、OS/2 Client
- **NDIS 2.01 ドライバー** - Microsoft LAN Manager、Microsoft Windows 3.11、IBM LAN Server
- **NDIS 3.0 ドライバー** - Microsoft Windows NT、Microsoft Windows 95、Microsoft Windows 3.11

7.1.3 質問と回答

Q: Wake-On-LAN とは何ですか？

A: Wake-On-LAN は、ウェイクアップ信号を送ることによってリモートでWake-On-LAN 対応システムの電源を投入する機能です。この機能により、オフピーク時にデータのアップロードやダウンロードをすることができます。

Q: Wake-On-LAN のメリットは？

A: Wake-On-LAN を利用することにより、システム管理作業量を削減することができます。また、柔軟なシステム管理も実現できます。時間も削減でき、もちろんTCOも削減できます。

Q: Wake-On-LAN を実現するために必要な部品は何ですか？

A: Wake-On-LAN を実現するには、Wake-On-LAN 対応LANカードとウェイクアップ信号を送出できるLDCM Rev.3.10などのソフトウェアが必要です。